

長岡山遺跡

長岡山東遺跡

発掘調査報告書

2013年3月

山形県南陽市教育委員会

ながおかやま
長岡山遺跡

ながおかやまひがし
長岡山東遺跡

発掘調査報告書

南陽市埋蔵文化財調査報告書第7集

平成25年3月

山形県南陽市教育委員会



長岡山遺跡 第4次調査時全景（北から）



長岡山遺跡出土 有孔罏付土器（赤彩有り）



長岡山遺跡出土 縄文土器

序

この度、「長岡山遺跡・長岡山東遺跡 発掘調査報告書」を発行する運びとなりました。

本書は、県立高校の統廃合に係る県立赤湯園芸高等学校の校舎解体及び同跡地における南陽市立赤湯小学校建設工事に伴うものと、市道稲荷森古墳線整備工事に伴う南陽市教育委員会が実施した発掘調査の成果をまとめたものです。

長岡山遺跡は、市内赤湯地区南部の長岡地区にあり、現在は市立赤湯小学校が建築されている所にあります。平成4年に分布調査を、平成10年に第1次調査を5月から、第2次調査を9月に実施し、平成12年に第3次調査を5月に、第4次調査を11月に実施しました。

長岡山東遺跡については、長岡山遺跡の東南側に位置し、試掘調査を平成3年5月に、本調査を同年6月に実施しました。これらの調査結果から、縄文時代から中世に亘るこの地域の生活の様子について理解できるものと存じます。

本市は、旧石器時代から、須刈田にある縄文時代の大野平遺跡等、古墳時代の前方後円墳である国指定史跡「稲荷森古墳」や全国的にも極めて珍しい合掌形石室を持つ市指定史跡「松沢古墳群」や同指定の「蒲生田山古墳」など数多くの遺跡を抱えております。この貴重な財産を後世に受け継ぎ顕彰し、本市の将来を考察する礎とすることが、この地に育ち生きていく私たちの責務と考えております。

結びに、本調査及び報告書を作成するにあたり、ご協力及びご指導いただいた佐藤鎮雄先生と佐藤庄一先生、そして公益財団法人千葉県教育振興財団文化財センターの白井久美子先生をはじめとする関係各位に厚く感謝を申し上げます。

平成25年3月

南陽市教育委員会

教育長 猪 野 忠

本書は、南陽市立赤湯小学校建設工事に係る「長岡山遺跡」及び市道稲荷森古墳線整備工事に係る「長岡山東遺跡」の発掘調査報告書である。

既刊の年報、現地調査説明会資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。

調査は南陽市教育委員会が実施した。

出土遺物・調査記録類は、報告書作成終了後、南陽市教育委員会が保管する。

調査要項

遺 跡 名	ながおかやま ①長岡山遺跡 ながおかやまひがし ②長岡山東遺跡			
遺 跡 番 号	① 1228 ②昭和 60 年度登録			
所 在 地	①山形県南陽市大字長岡字小生堂・金屋神 ②山形県南陽市大字長岡字西田中・西田中南			
調 査 主 体	南陽市教育委員会			
調査実施機関	南陽市教育委員会社会教育課			
調 査 期 間	①平成 4 年 8 月 21 日～平成 12 年 12 月 8 日 ②平成 3 年 5 月 18 日～平成 3 年 7 月 16 日			
調 査 担 当 者				
平成 3 年度	社 会 教 育 課 長	渡部昌久	社会教育課長補佐	山口光幸
	文 化 係 長	吉野一郎	主 任	井上紗智子
	主 事	角田朋行		
平成 4 年度	社 会 教 育 課 長	菅 利夫	社会教育課長補佐	山口光幸
	文 化 係 長	吉野一郎	主 事	高田美佐子
	主 事	角田朋行		
平成 10 年度	社 会 教 育 課 長	高橋与一	社会教育課長補佐	須藤房雄（社会教育担当）
	社会教育課長補佐	羽山正一（社会体育担当）		
	文 化 財 係 長	吉野一郎	主 任	高橋正恵
平成 12 年度	社 会 教 育 課 長	土屋幸一	社会教育課長補佐	須藤房雄
	文 化 財 係 長	吉野一郎	主 事	戸田賢司
報告書作成担当者				
平成 24 年度	ス ポ ー ツ 文 化 課 長	江口和浩	スポーツ文化課長補佐	熊坂正規
	埋蔵文化財調査推進係	鈴木義三	嘱 託	吉田江美子、山田 渚 岩瀬順子、佐藤加奈子
調 査 指 導	山形県教育委員会文化財課 佐藤鎮雄			
調 査 協 力	南陽市学校教育課 南陽市都市整備課			

凡 例

1 本書の執筆は熊坂正規（第Ⅰ章）、佐藤鎮雄（第Ⅱ章）、山田渚（第Ⅰ章、第Ⅲ章、第Ⅳ章）吉田江美子（第Ⅲ章第3節（2）、第Ⅲ章第4節「方形周溝墓」の項目、第Ⅳ章第3節（2））が担当した。

2 遺構図に付す高さは海拔高で表す。方位は磁北を示す。

3 本書で使用した遺構の分類記号は下記のとおりである。

SD・・・溝跡	SK・・・土坑	SX・・・性格不明遺構
SH・・・墓抗	SP・・・ピット	

4 遺構実測図及び遺物実測図の縮尺は各図に示し、各々スケールを付した。

5 写真図版は任意の縮尺で採録した。

6 基本層序および遺構覆土の色調記載については、1997年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版基準土色帖」によった。

7 発掘調査及び本書を作成するにあたり、下記の方々からご協力、ご助言をいただいた。（敬称略）

佐藤鎮雄 佐藤庄一 大塚初重 藤沼邦彦 秦昭繁 黒坂雅人 角田朋行 島貫幹子

また、菅原哲文氏からは縄文土器の分類をご教示いただいた。白井久美子氏からは鉄製品についての解説を寄稿していただき、永嶋正春氏からは鉄製品のX線写真を撮影していただいた。

8 委託業務は下記のとおりである。

①長岡山遺跡

基準杭設置業務 株式会社マエダ（平成4年度・10年度・12年度）

4次調査 航空写真遺構測量業務 株式会社パスコ

鉄製品保存処理 株式会社パスコ

遺物実測 株式会社パスコ

②長岡山東遺跡

基準杭設置業務 株式会社マエダ

目 次

I 調査の経緯……………	1	3 出土遺物……………	53
1 長岡山遺跡……………	1	4 まとめ……………	59
2 長岡山東遺跡……………	3	IV 長岡山東遺跡……………	70
II 遺跡の立地と環境……………	4	1 遺跡の概要……………	70
1 地理的景観……………	4	2 検出遺構……………	77
2 歴史的景観……………	5	3 出土遺物……………	85
III 長岡山遺跡……………	8	4 まとめ……………	88
1 遺跡の概要……………	8	付編 南陽市長岡山遺跡出土鉄製品	
2 検出遺構……………	35	報告書抄録	

表

表1 長岡山周辺の遺跡……………	6	表7 長岡山遺跡 石製品観察表……………	66
表2 長岡山遺跡 縄文土器分類表……………	54	表8 長岡山東遺跡 縄文土器分類表……………	71
表3 長岡山遺跡 縄文土器観察表……………	61	表9 長岡山東遺跡 縄文土器観察表……………	90
表4 長岡山遺跡 土器（古墳・古代）観察表……………	65	表10 長岡山東遺跡 土器（古墳・古代）観察表……………	91
表5 長岡山遺跡 土製品観察表……………	65	表11 長岡山東遺跡 土製品観察表……………	92
表6 長岡山遺跡 鉄製品観察表……………	65	表12 長岡山東遺跡 石製品観察表……………	92

図 版

第1図 長岡山周辺の遺跡位置図……………	7	第10図 長岡山遺跡 第1次調査 トレンチ図（2）……………	17
第2図 長岡山遺跡 調査区……………	9	第11図 長岡山遺跡 第1次調査 トレンチ図（3）……………	18
第3図 長岡山遺跡 試掘調査 トレンチ位置図……………	10	第12図 長岡山遺跡 第1次調査 トレンチ図（4）……………	19
第4図 長岡山遺跡 試掘調査 テストピット・トレンチ図（1）……………	11	第13図 長岡山遺跡 第2次調査 トレンチ位置図……………	20
第5図 長岡山遺跡 試掘調査 テストピット・トレンチ図（2）……………	12	第14図 長岡山遺跡 第2次調査 トレンチ図（1）……………	21
第6図 長岡山遺跡 試掘調査 テストピット・トレンチ図（3）……………	13	第15図 長岡山遺跡 第2次調査 トレンチ図（2）……………	22
第7図 長岡山遺跡 試掘調査 テストピット・トレンチ図（4）……………	14	第16図 長岡山遺跡 第2次調査 No.46 精査区 遺構配置図……………	23
第8図 長岡山遺跡 第1次調査 トレンチ位置図……………	15	第17図 長岡山遺跡 第2次調査 No.46 精査区 遺構配置図……………	24
第9図 長岡山遺跡 第1次調査 トレンチ図（1）……………	16	第18図 長岡山遺跡 第2次調査 No.46 精査区 SH 53……………	25
		第19図 長岡山遺跡 第3・4次調査区 位置図……………	26

第 20 図	長岡山遺跡	第 3 次調査	トレンチ図	27	第 42 図	長岡山遺跡	出土遺物 (15)	51
第 21 図	長岡山遺跡	第 4 次調査	遺構配置図	28	第 43 図	長岡山遺跡	出土遺物 (16)	52
第 22 図	長岡山遺跡	第 4 次調査	SD1 平面図	29	第 44 図	長岡山遺跡	出土遺物 (17)	53
第 23 図	長岡山遺跡	第 4 次調査	SD1 遺構断面図 (1)	30	第 45 図	長岡館略側図		60
第 24 図	長岡山遺跡	第 4 次調査	SD1 遺構断面図 (2)	31	第 46 図	長岡山遺跡 稲荷森古墳駐車場用地内 調査区位置図		67
第 25 図	長岡山遺跡	第 4 次調査	SD2 平面図・断面図	32	第 47 図	長岡山遺跡 稲荷森古墳駐車場用地内	遺構配置図	67
第 26 図	長岡山遺跡	第 4 次調査	SP 遺構断面図	33	第 48 図	長岡山遺跡 稲荷森古墳駐車場用地内	土層断面図	68
第 27 図	長岡山遺跡	第 4 次調査	SX1 平面図・断面図	34	第 49 図	長岡山遺跡 稲荷森古墳駐車場用地内 土層断面図・遺構平面図		69
第 28 図	長岡山遺跡	出土遺物 (1)		37	第 50 図	長岡山遺跡・長岡山東遺跡	遺跡範囲図 (調査当時)	70
第 29 図	長岡山遺跡	出土遺物 (2)		38	第 51 図	長岡山東遺跡	調査区 位置図	71
第 30 図	長岡山遺跡	出土遺物 (3)		49	第 52 図	長岡山東遺跡	テストピット柱状図	72
第 31 図	長岡山遺跡	出土遺物 (4)		40	第 53 図	長岡山東遺跡 南区	遺構配置図	73
第 32 図	長岡山遺跡	出土遺物 (5)		41	第 54 図	長岡山東遺跡 南区	遺構断面図 (1)	73
第 33 図	長岡山遺跡	出土遺物 (6)		42	第 55 図	長岡山東遺跡 南区	遺構断面図 (2)	74
第 34 図	長岡山遺跡	出土遺物 (7)		43	第 56 図	長岡山東遺跡 南区	遺構断面図 (3)	75
第 35 図	長岡山遺跡	出土遺物 (8)		44	第 57 図	長岡山東遺跡 北区	遺構図	76
第 36 図	長岡山遺跡	出土遺物 (9)		45	第 58 図	長岡山東遺跡	出土遺物 (1)	78
第 37 図	長岡山遺跡	出土遺物 (10)		46	第 59 図	長岡山東遺跡	出土遺物 (2)	79
第 38 図	長岡山遺跡	出土遺物 (11)		47	第 60 図	長岡山東遺跡	出土遺物 (3)	80
第 39 図	長岡山遺跡	出土遺物 (12)		48	第 61 図	長岡山東遺跡	出土遺物 (4)	81
第 40 図	長岡山遺跡	出土遺物 (13)		49	第 62 図	長岡山東遺跡	出土遺物 (5)	82
第 41 図	長岡山遺跡	出土遺物 (14)		50	第 63 図	長岡山東遺跡	出土遺物 (6)	83
					第 64 図	長岡山東遺跡	出土遺物 (7)	84

写真図版

巻頭写真 1	長岡山遺跡	第 4 次調査	全景	写真図版 18 ～ 51	長岡山遺跡出土	縄文土器 (1) ～ (34)
巻頭写真 2	長岡山遺跡	出土	縄文土器	写真図版 52	長岡山遺跡出土	土師器・須恵器
写真図版 1 ～ 2	長岡山遺跡	試掘調査		写真図版 53 ～ 54	長岡山遺跡出土	土偶・土製品
写真図版 3 ～ 5	長岡山遺跡	第 1 次調査		写真図版 55 ～ 62	長岡山遺跡出土	石器 (1) ～ (7)・石製品
写真図版 6 ～ 11	長岡山遺跡	第 2 次調査		写真図版 63	長岡山遺跡出土	鉄製品
写真図版 11	長岡山遺跡	第 3 次調査		写真図版 63	長岡山遺跡	4 次調査 SX1 出土遺物
写真図版 12 ～ 13	長岡山遺跡	第 4 次調査		写真図版 64 ～ 69	長岡山東遺跡出土	縄文土器 (1) ～ (6)
写真図版 14	長岡山遺跡		稲荷森古墳駐車場予定地内調査	写真図版 70 ～ 74	長岡山東遺跡出土	土師器・須恵器
写真図版 15 ～ 17	長岡山東遺跡	南区調査		写真図版 75	長岡山東遺跡出土	土偶・土製品
写真図版 17	長岡山東遺跡	北区調査		写真図版 76 ～ 79	長岡山東遺跡出土	石器 (1) ～ (4)

I 調査の経緯

1 長岡山遺跡

(1) 調査に至る経過

長岡山遺跡が立地する長岡山一帯は、縄文時代や古墳時代を中心とした大規模な「周知の遺跡」として知られていた。当時この場所は山形県立赤湯園芸高校の敷地となっており、同校舎造成時にはたくさんの遺物が出土した記録が南陽市史に残されている。

平成2～3年度の同校舎解体に伴い、平成3年度に県による「埋蔵文化財立会調査（試掘調査）」が実施され、2カ所で遺構・遺物が検出されている。

高校跡地利用について議論されるなか、平成4年度、将来の小学校設置候補地として、「遺跡の残存範囲概要確認」の目的で、山形県有地全域について、比較的粗い配置の試掘穴による試掘調査を実施した。

その結果、全体で4カ所の遺跡残存範囲が確認された。これは、主として校舎造成工事で削られなかった部分であり、もともとは長岡山全域が遺跡であったと推定される。

残存範囲4カ所の内、最も南の「稲荷森古墳の東隣接地区」は、当古墳築造に係る部分で、本来ならば「国指定史跡の範囲に含まれるべき場所」である（稲荷森古墳が国指定史跡となった昭和55年当時は、校舎等で試掘調査ができなかった）。これ以外の3地区は、記録保存の発掘調査により工事可能との結論が出された。

平成9年に市立赤湯小学校改築計画が確定したことに伴い、遺跡の保護と開発計画との調整について関係課が協議の結果、遺跡残存地区以外に建物配置計画を策定すれば、記録保存としての発掘調査が不要となることから、遺跡残存範囲を更に確認する調査を平成10年度に実施することとなった。

上記の県と市の調査結果を踏まえ、建物建設予定地の北半にある2地区について、調査範囲を更に明確にする目的で、平成10年5月より第1次調査を実施した。

第1次調査の結果、西部と南東部で概ね推定通りに遺

跡残存範囲が確認でき、当初の目的を果たした。これら北側2地区の残存遺跡は縄文時代を中心とする通常のものであり、仮にこれらに学校校舎配置が計画されても、記録保存の発掘調査終了後は工事が可能であった。しかし、一部から「古墳の主体部」と思しき遺構が検出され、県教育委員会に指導を仰いだところ、古墳やその主体部が1基だけでなくもっと存在している可能性もあることから、更に広い範囲の調査が必要であるとの指導を受けた。

このため、同年9月から第2次調査を行ったが、主体部は検出されなかった。その他にはコの字もしくは口の字型の溝が4基と、幅6m程の大溝が1基検出された。平成12年度に行われた第3次、第4次調査は、この大溝を対象とした調査である。

なお、主体部周辺の地区は、保存地区として保護・活用する場所とされた。

(2) 調査の概要

調査は事業地区内58,000㎡を対象として実施された。試掘調査は平成4年8月21日から9月4日まで、のべ11日間。第1次確認調査を平成10年5月11日から6月9日までのべ13日間、第2次確認調査を同年9月17日から10月16日及び10月21日から23日までのべ19日間、第3次調査を平成12年5月25日から6月1日まで、のべ6日間。第4次調査を同年11月1日から12月8日までのべ30日間実施した。以下に調査の経過を略記する。

試掘調査

8月21日 TP杭の設置とグリッド杭の確認作業。

8月24日 重機による表土剥離。TP掘下げ。

8月25日～9月3日 TP掘下げ、終了したものから記録。

9月2日～4日 TT設定および掘り下げ、終了したものから記録。

9月4日 撤収作業

第1次調査

5月11日～12日 基準杭の確認とトレンチ位置設定。

5月13日～15日 重機によるトレンチの表土剥離。
終わったものから手掘り。

5月18日～25日 トレンチ掘下げ。終わったもの
から記録作業

5月26日 トレンチNo.12にサブトレンチを入れ掘
下げ。残りのトレンチは埋戻し。

6月1日 県教育委員会の現地指導。

6月9日 埋戻し完了。

第2次調査

9月17日 トレンチ位置設定。

9月18日 トレンチ位置の線引き。中央精査区の設
定。

9月21日 重機による表土剥離。

9月22日 重機による表土剥離。終了したトレンチ
から面整理と記録作業。

9月24日 トレンチの面整理と記録作業。

9月25日 館堀確認のためトレンチを増設。重機に
よる表土剥離。

9月26日 重機による表土剥離と、記録が完了した
一部のトレンチの埋戻し作業。

9月29日 重機による表土剥離。終了したトレンチ
から掘下げと面整理、記録作業。

9月30日 重機による表土剥離。

10月2日 中央精査区の重機による表土剥離、後人
力で掘下げ。トレンチの掘下げ。

10月5日～13日 トレンチの面整理、記録作業。
中央区の掘下げ、面整理、記録作業。

10月21日～23日 SD5に試掘溝を設ける。掘下げの
後記録作業。

第3次調査

5月25日 重機による表土剥離。

5月26日 トレンチ設定。

5月29日 重機によるトレンチの掘下げ。

5月30日 トレンチ壁削りと記録作業。

5月31日 トレンチ壁の記録作業。撤収

6月1日 埋戻し。

第4次調査

11月1日 基準杭による発掘調査区の設定作業。

11月2日 重機による表土剥離作業。

11月3日 調査区の排水作業。重機による表土剥離。

11月4日 排水用の溝掘り。重機による表土剥離。

11月6日～9日 北区の面整理。重機による表土剥
離。

11月10日 南区の溝にベルト設定、掘下げ。遺構確
認状況写真撮影。

11月11日～13日 北区重機による表土剥離。南区ベ
ルト掘下げ。

11月14日 北区の面整理。南区ベルト掘下げ、記録
作業。

11月15日 北区面整理と記録作業。南区手掘りと重
機による表土剥離。

11月16日～22日 SD1・2の記録作業後、重機によ
るベルト除去。

11月22日 SX1掘下げ。

11月23日～28日 SD1・2のベルト外しと面かき、
記録作業。SX1掘下げ。

11月29日 SD1内P1～4掘下げと記録。

11月30日 遺構に白線でマーキングを行う。

12月1日～4日 空撮に向けて遺構の掃除とマーキン
グ。プレハブ西側斜面の重機による表土剥離。

12月5日 プレハブ西側斜面の遺物掘り。SDの写
真撮影。

12月6日～8日 プレハブ西側斜面の遺物掘り。

12月8日 午後から撤収作業。

2 長岡山東遺跡

(1) 調査に至る経過

長岡山東遺跡は、南陽市赤湯地区南部の長岡地区にあり、通称長岡山の東側から南側にかけて長岡字西田中及び西田中南に所在し宅地及び畑である。

市道稲荷森古墳線の整備工事にともない、試掘調査を実施し、主に北側から遺物が出土した。これを踏まえて精査区を設定し、本調査を実施した。

(2) 調査の概要

調査は事業地区内 1700 m²を対象として実施された。試掘調査は平成 3 年 5 月 16 日から 20 日まで、のべ 4 日間行われ、本調査は平成 3 年 6 月 13 日から 7 月 16 日ののべ 20 日間実施した。以下に調査の経過を略記する。

試掘調査

- 5 月 16 日 地表面踏査を行い、試掘穴の位置を設定した。順次試掘・記録を行い、TP1・2・4・6・7・8 の記録が完了。
- 5 月 17 日 TP3・5・9・10 の記録完了。
- 5 月 18 日 TP11 を掘り下げ、TT1 を TP3 の南側に設定し掘下げを行う。TP12 の記録完了。
- 5 月 20 日 TT1、TP11 の記録完了。撤収作業。

本調査

- 6 月 13 日 資材運搬と調査範囲にテープを張る作業を行う。
- 6 月 14 日 南区の重機による表土剥離作業。
- 6 月 18 日 試掘時の TP を掘り起し、荒掘りを開始。
- 6 月 19 日 荒掘り及び面整理作業。調査区四方の壁切作業。
- 6 月 21 日 荒掘り続行。土層確認のため攪乱部を掘り下げる。
- 6 月 24 日 荒掘りと面かき作業。SX1・2 について、半裁掘下げ。文化財保護審議会の視察あり。
- 6 月 25 日 面かき作業 SX1・2 の掘下げ、記録完了。

- 6 月 26 日 面かき作業 SX3・4 の掘下げ、記録完了。
- 6 月 27 日 面かき作業 焼土の記録作業。
- 6 月 28 日 SD1 にベルトを設定し掘下げ。
- 7 月 1 日 調査区東壁、北壁記録作業。柱穴ナンバリング。SD1 記録完了。
- 7 月 3 日 SX5、SK1 ～ 4 掘下げと記録。北区荒掘り開始。
- 7 月 4 日 SX5、SK1・3・4、調査区西壁、南壁記録作業。北区荒掘り。
- 7 月 5 日 SX5 記録作業。
- 7 月 9 日 SX5 ベルト外し。南区平面図作成。北区壁切、面かき作業。
- 7 月 11 日 南区平面図作成、地山掘下げ。北区水抜き作業。
- 7 月 15 日 写真撮影のため面かき作業。北区壁記録作業。
- 7 月 16 日 道具整理、図面整理。

註)

TP・・・テストピット（試掘坪堀穴）

TT・・・テストトレンチ（試掘溝）

Ⅱ 遺跡の立地と環境

1 地理的景観

南陽市の地理的景観を簡単に表現すると「北に丘陵、南に沃野」と言える。北の丘陵とは、山形県南部の置賜地方の米沢盆地周辺域の北部を限る白鷹山（標高994m）の南に広がる白鷹山系丘陵をさす。白鷹山は新生代第四紀の火山である。白鷹火山の活動の噴出物を主体とする丘陵が周囲に広がるが、その南部丘陵が南陽地域の北部丘陵である。

白鷹山の麓に源を発する吉野川は、ほぼまっすぐ南流し、上流域の吉野地区、上中流域の金山地区を貫流して宮内地区に至る。宮内地区で山間を抜け出て広大な扇状地を形成する。扇頂部から扇央部が宮内地区、扇央部から扇端部が沖郷地区である。その東隣の赤湯地区にある。

位置的には、赤湯地区南部の長岡で、西隣は沖郷地区郡山及び中ノ目である。J R 奥羽本線赤湯駅から奥羽本線は東北に進み、東進して赤湯地区北部山麓を大きく廻り山形方面に路線を伸ばす。また、赤湯駅から北進して宮内に至り、さらに西進するフラワー長井線が路線を伸ばしている。長岡はこうした鉄路から大きく離れ、J R 赤湯駅の東南1.4kmほどのところにある。

ところで、吉野川の扇状地は宮内地区西部を南流する上無川、宮内地区西隣の漆山地区を南流する織機川の沖積作用をも複合した合成扇状地である。この扇状地を「宮内扇状地」と呼称している。

宮内扇状地を形成した主力は吉野川であるが、吉野川はかつて宮内東部からまっすぐ南下して沖郷地区内を流れていた。しかし、現在は沖郷地区北部で流路を東南に変えて赤湯地区へ流れる。赤湯地区西部の三間通、二色根、櫛塚を経て、大谷地境で流路を西に変えて俎柳・大橋を通り、鍋田の南で最上川に合流する。沖郷地区内を流れたかつての本流と赤湯方面を迂回する現在の本流は中世まで存在したが、梅雨時や豪雨時期を除いた平時の水量はさほどでなく、近世になって現在の本流一本になった。

このような吉野川の流れは、約1100万年前頃の火山性陥没地形と関係する。この陥没地形はいわばカルデラで、宮内地区の東南から沖郷地区の東半分がカルデラ内部とみられる。そのため最初は、低い沖郷地区の東側へ吉野川に流れ込んだのである。そのための堆積作用は10万年ほど前の氷河期から後氷期の1万年前頃まで続いた。しかし堆積層が厚くなるにつれ、カルデラの中心がある赤湯地区南部により多く流れるようになったのである。このカルデラの遺存したところの低湿地が大谷地である。吉野川の東南に流れた先の大谷地には東から屋代川も流れ込み、東南から押され流路を西へ変えたのである。米沢盆地で一番低い陥没地形に流れ込んだものの、平時の水量が少ないためせき止められたような状況になったが、堆積した土砂を超える梅雨時や豪雨時の水量を吉野川も屋代川も西へ排水したので、このような流路ができたものとみられる。

赤湯地区の長岡は、東南に流れる吉野川の南にあり、その作用を受けて、その多くが沖積地である。しかし、陥没地形ができた時に陥没しなかったのが長岡山の基盤である。そのため、上部に洪積層が残り、南北に長い長岡山が洪積台地として存在する。したがって、山上は洪積層、周辺は沖積層という特異な立地状況が生まれたのである。

このような地層の背景には、吉野川が南下した地形と東南に流れを変えた地形の接点にあたる宮内地区関口と長岡山を結んだラインに沿うように傾斜変換線が何条にもみられる。そのラインから赤湯地区にカーブしながら蛇行して現在の流路に至ったのである。

この吉野川の沖積作用は1万年前頃には余程落ち着いてきたものの、人が居住できる環境ができるにはさらに数千年近く時をようしたようで、5800年前といわれる押出遺跡の集落立地基盤層ができたのが早い方で、吉野川流域では5000年前頃の縄文時代中期初頭以降の遺跡が立地する。

このような扇状地の状況とは別に洪積台地の長岡山ではもっと古い時期からの人類の痕跡がみられる。

2 歴史的景観

(1) 縄文時代

南陽市で最古とみられる遺跡が長岡山遺跡で、旧石器時代後期とみられるナイフ型石器が発見されている。さらに縄文時代草創期とみられるエンドスクレイパーも採集されている。

縄文時代草創期の遺跡は、大谷地を挟んだ対岸の高畠町日向洞窟、一ノ沢岩陰、火箱岩洞窟、大立洞窟などの遺跡で発見されているが、赤湯地区松沢遺跡や北町遺跡でも確認され、大谷地縁辺に最初の縄文人の活動が展開したことは間違いない。

さらに北町遺跡から近い赤湯地区月ノ木B遺跡や漆山地区でも山間部の大野平遺跡などでも早期の遺跡が確認されている。

いずれも長岡山遺跡からは遠いが、赤湯地区の東部と漆山地区織機川流域の西部に早期以降の古い時期の遺跡が発見されている。吉野川上流部のほの木平遺跡でも前期の石器が発見されているが、吉野川中流域・下流域では中期以降の遺跡しか確認されていない。

中期以降になると宮内扇状地吉野川流域を含めて北部丘陵地域でも縄文遺跡が数多く分布する。

(2) 弥生時代

赤湯地域の上野山山頂遺跡・月ノ木B遺跡、宮内扇状地沖郷地区の沢田・百刈田・萩生田の各遺跡、漆山地区の矢ノ目庚壇遺跡、梨郷地区の掛在家遺跡で、中期から後期の遺跡が確認されている。ただし、後期の遺跡といっても天王山式期までで、その後の弥生遺跡は確認されていない。

(3) 古墳時代

前期4世紀の前半に属する蒲生田山古墳群4号墳・3号墳をはじめそれに続く後半の稲荷森古墳や天王山古墳群、大塚古墳・方形周溝墓群など前期の遺跡は大変多い。長岡山遺跡や長岡南森遺跡も前期の遺跡である。

中期になっても宮内扇状地には、沖郷地区の沢田遺跡や百刈田遺跡・植木場一遺跡などが見られ、梨郷地区の経塚山の周辺4山頂から南斜面にかけて中期後半から後期にかけての古墳群が分布する。また、梨郷地区の清

水ノ下遺跡など後期の集落遺跡も発見されている。

さらに異質な古墳群ではあるが、合掌型箱式石棺の積石塚の松沢古墳も後期の古墳である。

(4) 飛鳥・奈良・平安時代

7世紀末から9世紀にかけて宮内扇状地やその北東部山麓周辺に集落遺跡や古墳群が多く分布する。集落遺跡は沢田遺跡など沖郷地区郡山周辺に濃密に分布し、古代置賜郡衙の所在をうかがわせる。そこから2kmほど北東部の沖郷地区蒲生田と赤湯地区北西部にまたがる山間地には二色根古墳群はじめ数多くの終末期古墳群が分布する。また、宮内扇状地には古代条里制が施行され、要所々々に8世紀から10世紀にかけての集落遺跡が分布する。長岡山や稲荷森古墳にも平安時代の須恵器が分布する。

(5) 鎌倉・室町時代

室町時代の置賜は伊達氏の支配下にあり、北条荘といわれた南陽市域には数多くの集落が営まれ、城館が築かれた。宮内扇状地の一角を占める長岡周辺でも郡山の矢野目館。俎柳の内城館・鶴の木館が確認されており、長岡山にも城館が築かれたと伝えられている。稲荷森古墳に中世の墓地がつくられ、墓坑も検出されている。また、墳丘の1段目に大きな五輪塔が立てられていた。

(6) 江戸時代

米沢城下から北上して赤湯を経て山形にいたる街道が整備されたが、宿駅の大橋から赤湯にいたる道筋に長岡があり、長岡と柵塚境には一里塚があった。長岡丘陵の南端・南森はキリシタン処刑場にされたが、後に神社が祀られている、また、長岡山や稲荷森古墳にも雲南稲荷神社などの神社が祀られている。

(7) 近現代

昭和17年、昭和2年創立の赤湯実業公民学校が赤湯小学校敷地から長岡山に移転し、昭和23年に山形県立赤湯園芸高等学校となる。昭和17年の新校舎建築にあたり出土した多くの出土遺物が風也塾(現結城豊太郎記念館)に収蔵された。昭和23年の高校校舎建築の際の出土遺物も風也塾間借りの赤湯公民館に集められてい

る。

長岡山は、赤湯実業公民学校・赤湯園芸高等学校の建築以前に長岡館築造に際し削平されたが、さらに上記両校の建築にも削平されるという、繰り返しての遺跡破壊が行われた。そのうえ、赤湯園芸高等学校時代に実習用

畑の造成が行われ、また長岡墓地の造成もあり、長岡山の大半が古墳時代までの現況を失ったものとみられる。

参考文献

- 菅井敬一郎 1990 「第Ⅰ章南陽市のおいたち」『南陽市史上巻』南陽市
 柏倉亮吉 1961 「東北地方の条里制」『古代文化Ⅶ-4』古代学協会
 佐藤鎮雄 1987 『南陽市史考古資料篇』南陽市
 佐藤鎮雄・佐藤庄一 1990 『南陽市史上巻』南陽市
 角田朋行 2001 「南陽市域の条里制及び古墳等について」『山形県地域史研究 26 号』
 川崎利夫編 2004 『出羽の古墳時代』
 佐藤鎮雄 2010 『出羽国ができるころ』山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
 佐藤鎮雄 2011 『やまがたの古墳時代』山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
 佐藤鎮雄 2012 『平安初頭の南出羽考古学』山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
 中沢 実 1992 「第五章 学校教育のあゆみ」『南陽市史上巻』南陽市

表 1 長岡山周辺の遺跡

番号	遺跡名	種 別	時 代	番号	遺跡名	種 別	時 代
1	長岡山	集落跡	旧石器・縄文・古墳・奈良・平安	41	西中上	散布地	平安
2	長岡山東	散布地	旧石器・縄文・古墳・奈良・平安	42	将監屋敷	散布地	奈良・平安
3	馬場	馬場	中世	43	上河原	散布地	平安
4	久根崎	集落跡	縄文	44	島貫	集落跡	奈良・平安
5	源兵工山	散布地	縄文・古墳	45	沢田	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安・中世
6	内源三	散布地・古墳群	古墳（終末期）	46	郡山中堀	散布地	奈良・平安
7	山居沢山 C	散布地	平安	47	西原東	集落跡	奈良・平安
8	蒲生田山古墳群	古墳群	古墳（終末期）	48	沢口	集落跡	奈良・平安
9	山居沢山 A	散布地	平安	49	前畑	散布地	平安
10	山居沢山 D	包蔵地	平安	50	間々ノ上	散布地	奈良
11	山居沢山 B	散布地	平安・古墳	51	矢ノ目館	集落跡・城館跡	奈良・平安・中世
12	蒲生田館	館	中世	52	東六角	散布地	縄文（中期）・平安
13	蒲生田館南	散布地	縄文・奈良・平安	53	早稲田	散布地	奈良
14	当時作	散布地	縄文・奈良・平安	54	李の木	包蔵地	縄文・平安
15	観音堂	散布地	縄文・平安	55	櫛塚館	城館	中世
16	上野遺跡	集落跡	縄文・平安・中近世	56	櫛塚館ノ山	集落跡・城館跡	縄文（後期）・中世
17	狸沢山古墳群	古墳群	弥生・古墳（終末期）	57	百刈田	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安
18	上野山古墳群	散布地・古墳群	弥生・古墳（終末期）	58	前小屋	散布地	縄文
19	若狭郷屋敷	館	中世	59	長岡館	館	中世
20	中屋敷	散布地	奈良・平安	60	稲荷森古墳	散布地・古墳	旧石器・縄文・古墳・平安
21	唐越	散布地	縄文（中期）・奈良・平安	61	長岡西田	散布地	縄文
22	東唐越館	館跡	中世	62	長岡南森	散布地	縄文・古墳・平安
23	横沢	散布地	縄文（中・後期）・奈良	63	太子堂	散布地	平安
24	二色根古墳群	古墳群	古墳（終末期）	64	寺田	包蔵地	古墳
25	二色根館	城館跡	中世	65	大屋敷	散布地	平安
26	中野山館	館	中世	66	南屋敷館	城館跡	中世
27	夷平	散布地	縄文（晩期）・中世	67	馬ノ墓	散布地・古墳	古墳・奈良・平安
28	北町	散布地	縄文（前期）	68	機内城館	館	中世
29	稲荷前	散布地	縄文（前期）	69	機内田	散布地	平安
30	西田	散布地	平安	70	窪田尻	散布地	平安
31	萩生田	集落跡・散布地	弥生・奈良	71	中野目下	散布地	奈良・平安
32	諏訪前	散布地	縄文（中期）・古墳（前期）・平安	72	鶴ノ木館跡	集落跡・城館跡	古墳・平安・中近世
33	上野山館	館	中世	73	内城館	館	中世
34	烏帽子山古墳	古墳	古墳（終末期）	74	熊の前館	館	中世
35	烏帽子山経塚	経塚	平安	75	水上	散布地	奈良・平安
36	上ノ山	散布地	縄文	76	東畑 A	散布地	平安
37	梅ノ木	散布地	奈良・平安	77	東畑 B	散布地	平安
38	井戸尻	散布地	奈良・平安	78	俎柳館	城館	中世
39	大塚	集落跡・散布地	縄文・古墳・奈良・平安	79	大橋城	城館	中世
40	古屋敷	散布地	平安	80	御殿跡	館	中世



第1図 長岡山周辺の遺跡位置図 (国土地理院発行 2万5千分の1地形図「赤湯」使用)

Ⅲ 長岡山遺跡

1 遺跡の概要

長岡山遺跡は、南陽市の東南に位置する赤湯地区の中央部南寄りに位置している。遺跡の立地する長岡丘陵は、標高 220 m ほどの洪積台地で、遺跡の発見は古く昭和初期には既に知られていたが、本格的な調査はなされていなかった。過去に表採された遺物は、旧石器時代後期のナイフ形石器や尖頭器、石鏃や磨製石斧などの縄文時代の石器、縄文時代中期の土器、古墳時代の土師器、古代の土師器・須恵器などである。このことから、遺跡周辺では旧石器時代から長期間にわたって人々が生活していたことが分かっている。

長岡山丘陵は、

- ①古墳等の築造による「古墳時代」の部分的改変
- ②館跡築造による「中世」の中規模改変
- ③昭和 17 年の赤湯実業公民学校（後の赤湯園芸高校）校舎建築による大規模改変
- ④平成 2 年の赤湯園芸高校統廃合に伴う盛り土（整地）による全面的改変

と、大きく分けて 4 度の改変が行われている。これらの改変により遺跡の上部は削られてしまったため、残存しているのは丘陵の裾部分と窪地である。また、丘陵を削平する際に、平地を増やすために土を東西の斜面に押し出しており、そのため東西両端部は相当の盛土がなされている。丘陵の南側は標高が高かったことから、相対的に深い掘削がなされているため、南側は遺構・遺物ともほとんど失われている状態である。赤湯園芸高校の果樹園として南側を造成した際には、地山の表面近いところに竪穴式住居の平面形とおもわれる落ち込みが多数発見されている。

丘陵の南西には国指定史跡「稲荷森古墳」が存在する。稲荷森古墳は全長 96 m、高さ 9.6 m の三段築成の前方後円墳で、4 世紀後半の古墳である。この古墳は、長岡山丘陵を古墳の後円部の東隣一帯で切断し、あわせて周囲の丘陵を削り出してから盛り土して古墳の形に仕上げたものである。また、古墳の築段の下から 2 段目

までは、当時の長岡山丘陵をそのまま利用している。

さらに丘陵の西には郡衙推定地の郡山地区が隣接し、これらの遺跡との関係性も窺わせる。

今回の調査対象範囲は主に旧赤湯園芸高校の敷地であった 58,000 m²で、まずは試掘調査として 1 m 四方のテストピット 26 カ所と、1 m × 6 m のテストトレンチ 2 カ所を入れた。

試掘調査の結果、遺構残存範囲は大きく 4 つに分けられた（主として造成工事で削られなかった部分）が、その後の調査対象となったのは、市立赤湯小学校改築整備事業の対象範囲に含まれる北側の 2 地区である。

第 1 次調査では、大きく丘陵の南部、西部、北部に分けてテストトレンチを入れた。その結果、南部からは遺構らしきものはほとんど検出されず、遺物は西側斜面付近からはある程度数が出たものの、削平された部分からはほとんど検出されなかった。対して遺跡の北部では複数の溝が検出され、北西部の斜面付近からは多くの遺物が出土した。

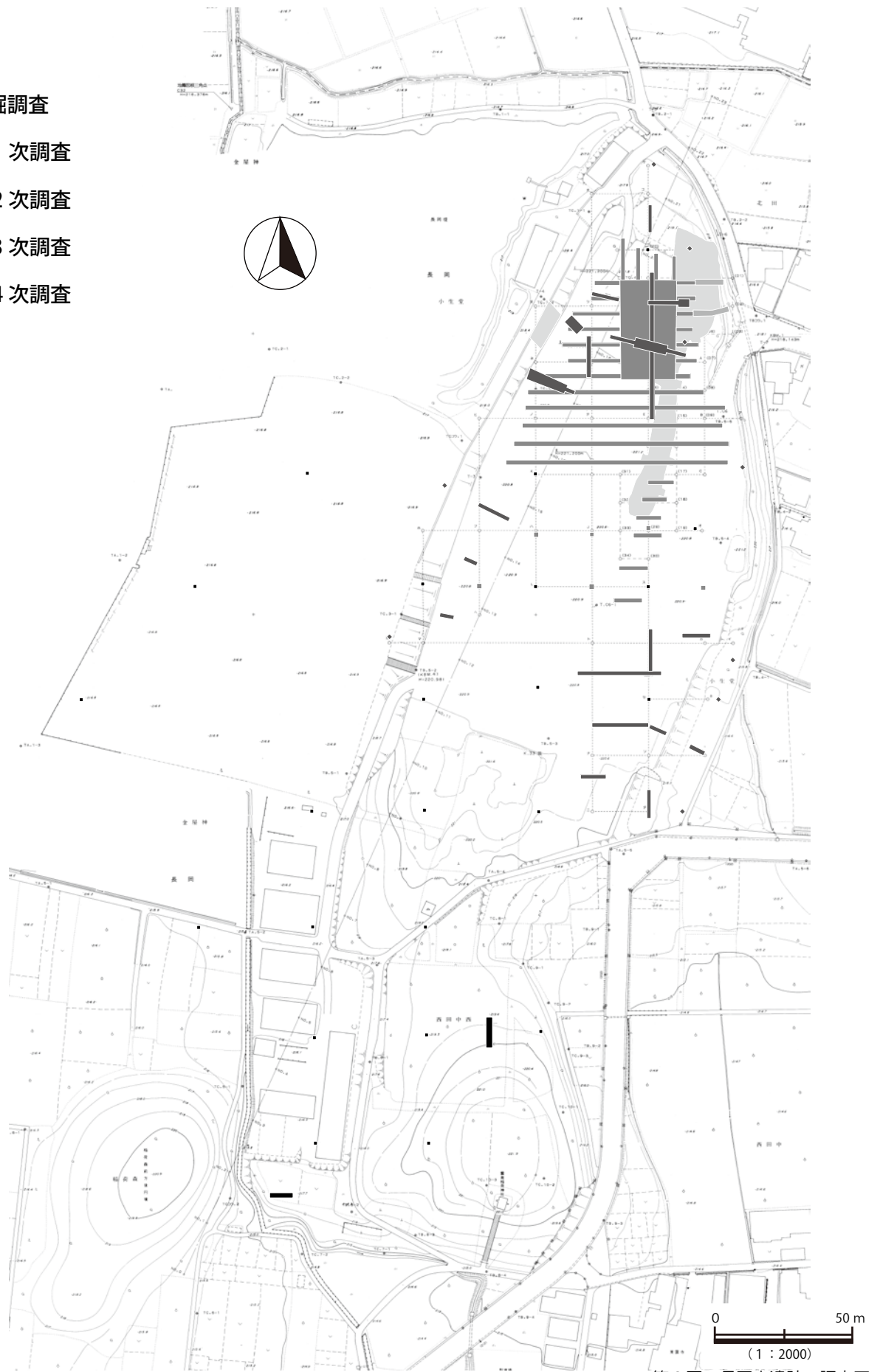
第 2 次調査では遺跡の北側全体に 4 m 間隔で 1.5 m のトレンチを 12 本入れ、その他確認用のトレンチを 10 本入れた。また、古墳の主体部らしき溝が見つかった中央部は、700 m²の範囲の全面剥離を行った。

第 3 次調査は東側の溝の確認調査で、2 本のトレンチを入れた。

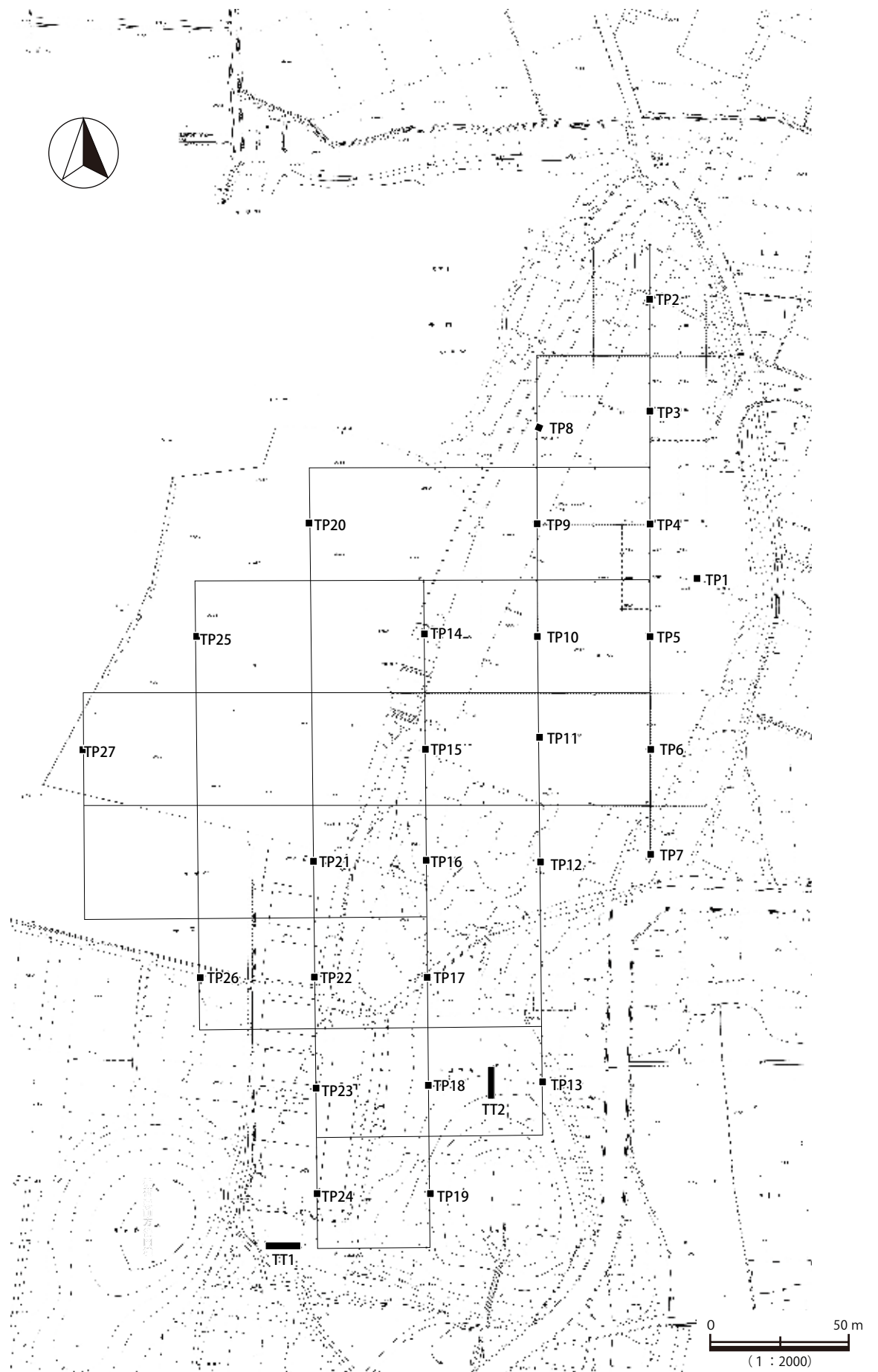
第 4 次調査では、3 次調査の範囲を含む東側一帯に、南北に長く調査区を設定した。その結果、長さ 100 m にも及ぶ溝が検出された。

なお、稲荷森古墳駐車場用地内地区は、平成 4 年の 10 月から 11 月にかけて行われた調査であり、2 カ所のテストピットと 1 カ所の精査区を調査したものである。

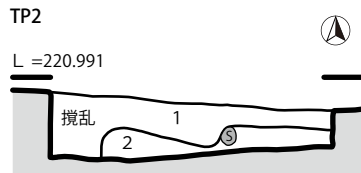
- 試掘調査
- 第1次調査
- 第2次調査
- 第3次調査
- 第4次調査



第2図 長岡山遺跡 調査区

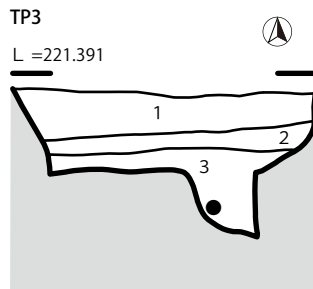


第3図 長岡山遺跡 試掘調査トレンチ位置図



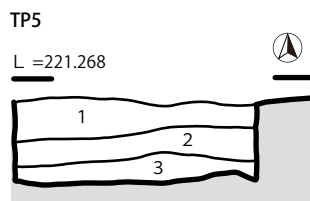
テストピット TP2

- 1 10YR5/3 にぶい黄褐色粘土 細砂粒混入
- 2 5YR8/2 灰白色細砂 粘土混入



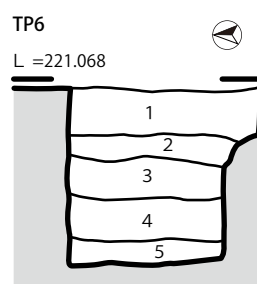
テストピット TP3

- 1 うすい黄橙色中砂 表土
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色細砂 粘土混入
- 3 10YR8/6 黄橙細砂 粘土混入 (●は鉄斧出土位置)



テストピット TP5

- 1 山土
- 2 碎石
- 3 2.5YR8/3 淡黄色細砂 粘土混入 しまりあり



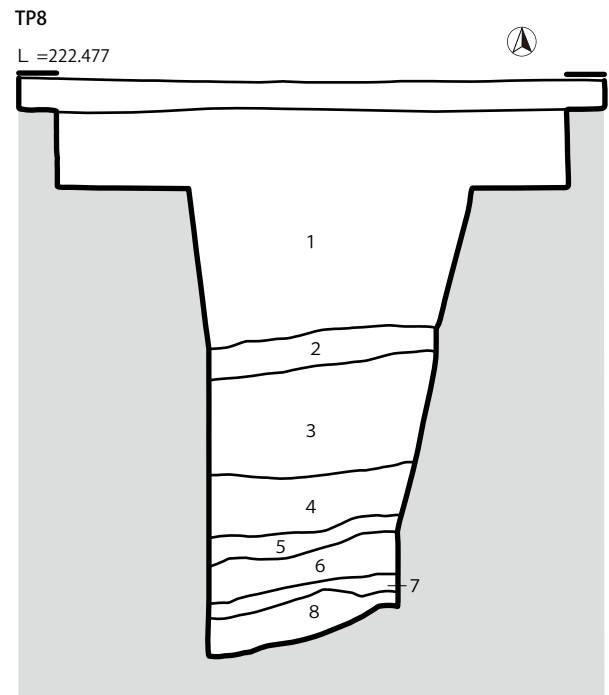
テストピット TP6

- 1 山土
- 2 10YR3/2 黒褐色細砂 粘土混入 しまりあり (整地土)
- 3 10YR2/2 黒褐色細砂 粘土混入 しまりあり (整地土)
- 4 10YR3/4 暗褐色粘土 細砂粒混入 しまりややあり (整地土)
- 5 10YR3/2 黒褐色粘土 細砂粒混入 しまりややあり (包含層)
- 6 2.5YR8/3 淡黄色



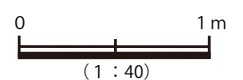
テストピット TP7

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土 細砂粒混入 しまりあり (耕作土)
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土 細砂粒混入 しまりあり (耕作土)
- 3 10YR3/2 黒褐色粘土 細砂粒混入 しまりややあり
- 4 10YR3/3 暗褐色粘土 細砂粒混入 しまりややあり
- 5 10YR2/2 黒褐色粘土 細砂粒混入 しまりややあり (包含層)
- 6 10YR2/1 黒色粘土 細砂粒混入 しまりなし (遺構標準面)

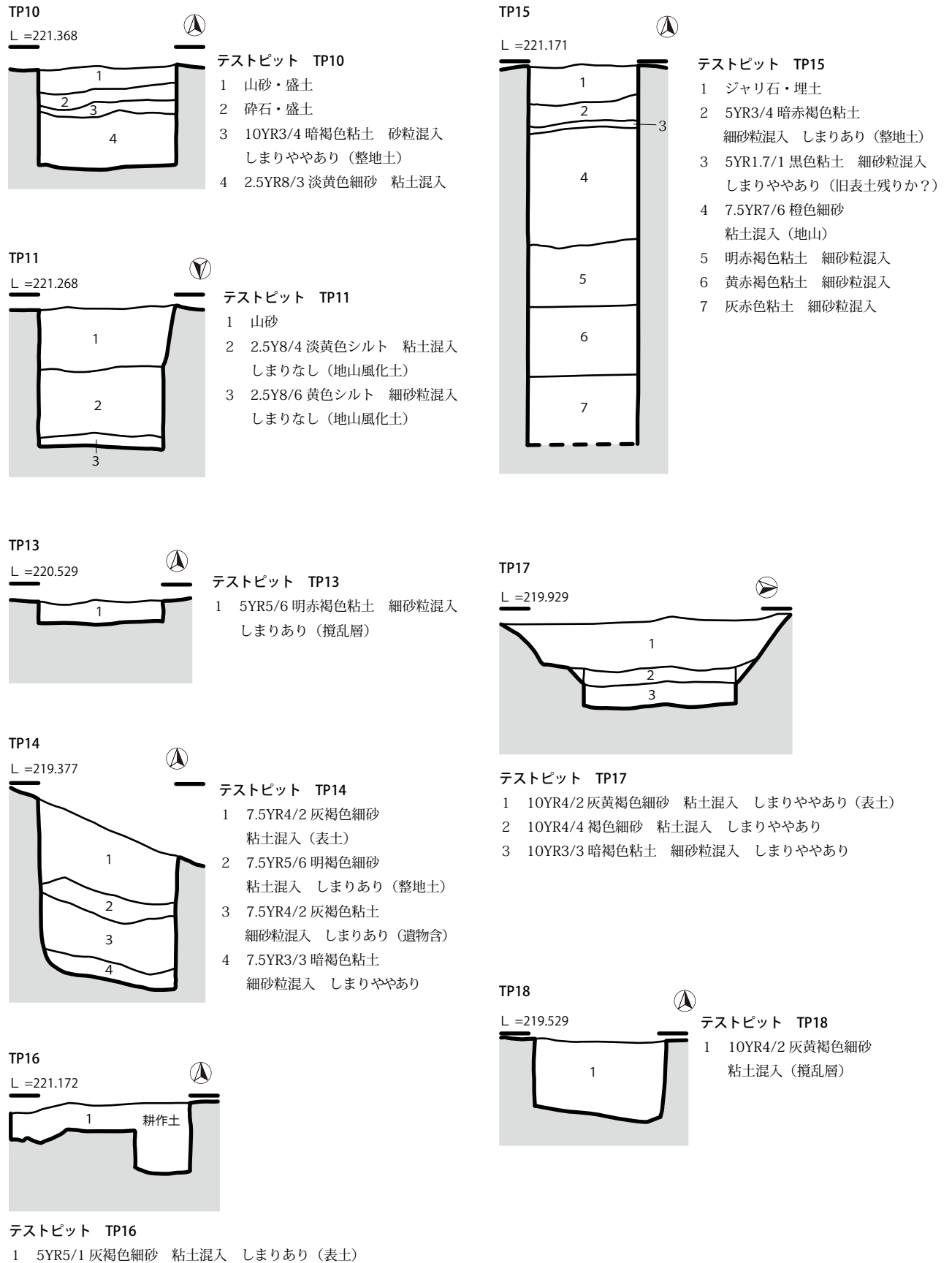


テストピット TP8

- 1 盛土
- 2 10YR5/2 灰黄褐色細砂 粘土混入 しまりあり
- 3 7.5YR3/1 黒褐色細砂 粘土混入 しまりあり
- 4 7.5YR3/4 暗褐色粘土 細砂粒混入 しまりややあり
- 5 7.5YR4/4 褐色粘土 細砂粒混入 しまりややあり (赤味がかかる)
- 6 10YR2/3 黒褐色粘土 細砂粒混入 しまりややあり
- 7 10YR2/3 黒褐色粘土 細砂粒混入 しまりややあり 炭化物多く含む
- 8 10YR2/3 黒褐色粘土 細砂粒混入 しまりややあり

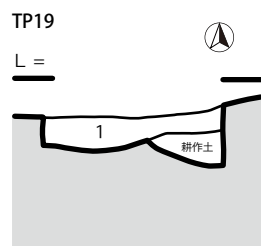


第4図 長岡山遺跡 試掘調査 テストピット・トレンチ図 (1)



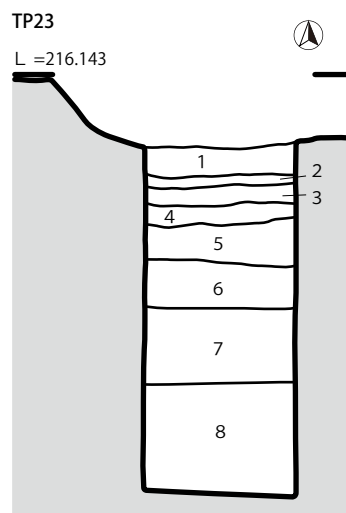
0 1 m
(1 : 40)

第5図 長岡山遺跡 試掘調査 テストピット・トレンチ図 (2)



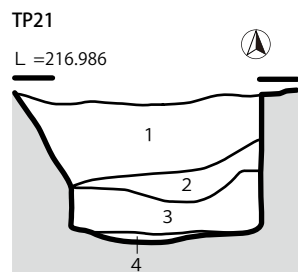
テストピット TP19

- 1 10YR3/2 黒褐色細砂 粘土混入
しまりややあり（表土・整地層）



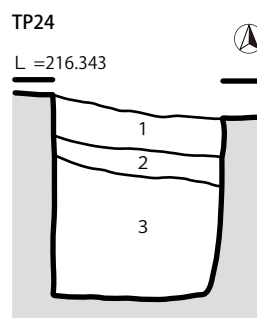
テストピット TP23

- 1 暗褐色砂質粘土
- 2 明黄橙色砂質粘土
- 3 明褐色粘土質砂
- 4 黄灰色砂質粘土
- 5 茶褐色粘土質砂
灰青色砂混入
- 6 赤橙色砂
- 7 黒褐色粘土
- 8 茶灰色砂質粘土



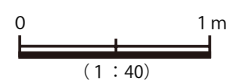
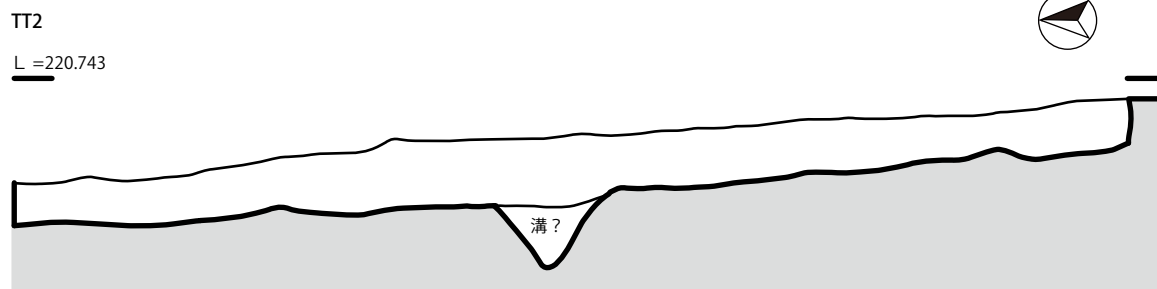
テストピット TP21

- 1 表土・山土
- 2 5YR4/1 灰褐色細砂
粘土混入 しまりあり（埋土）
- 3 5YR5/6 明赤褐色粘土
細砂粒混入 しまりややあり（埋土）
- 4 5YR2/1 黒褐色細砂
粘土混入 しまりなし（元の表土）

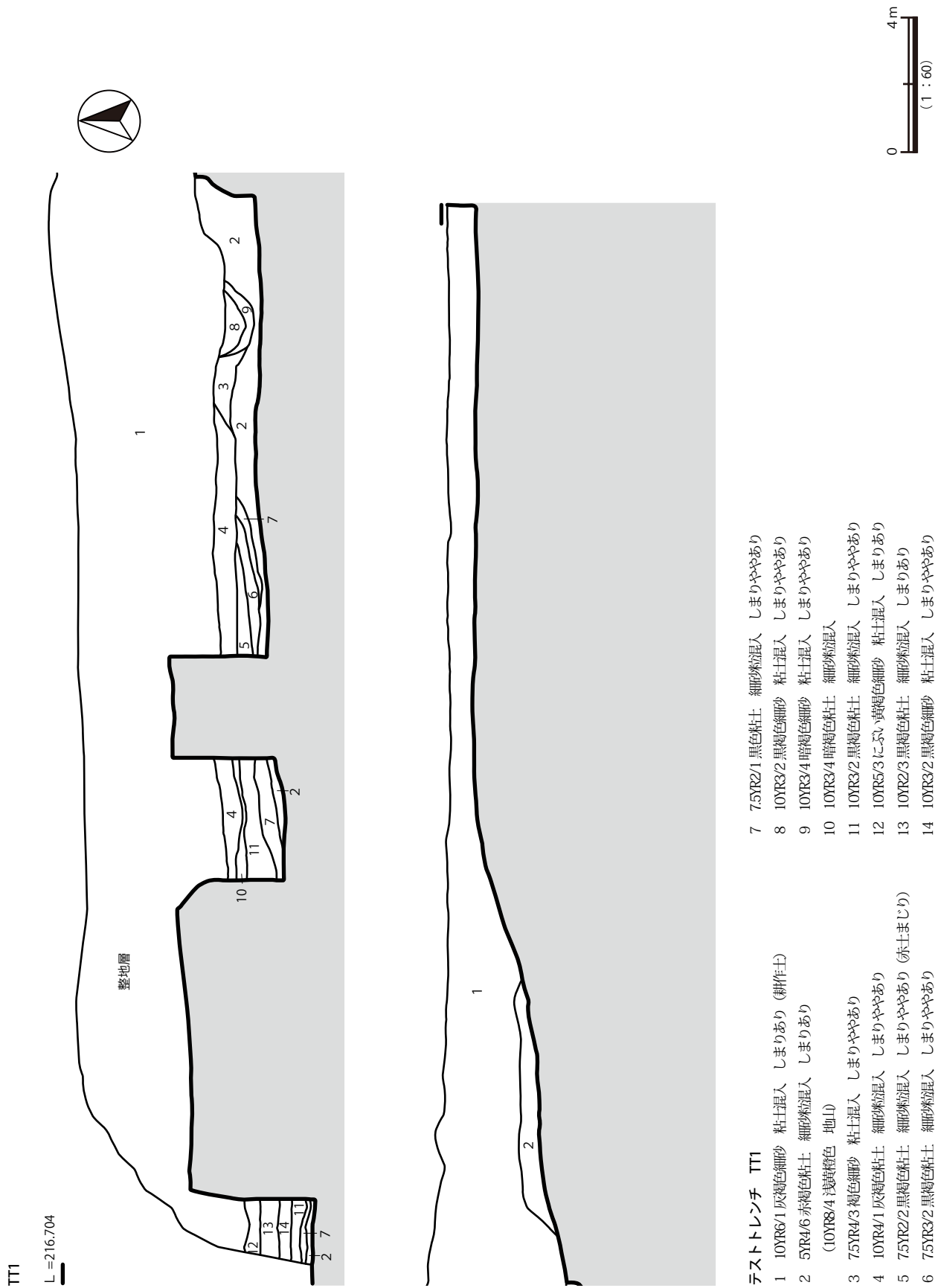


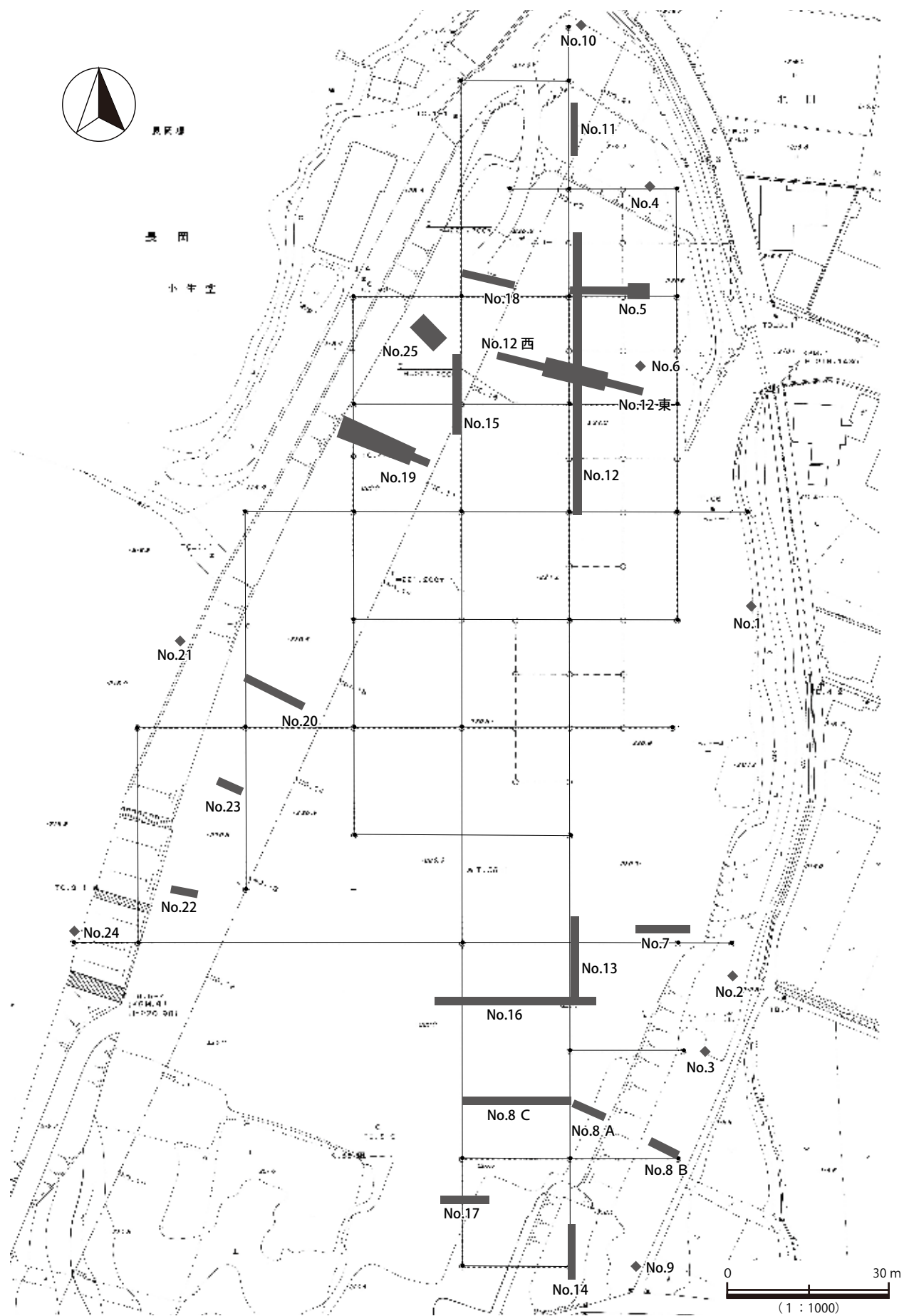
テストピット TP24

- 1 5YR5/1 灰褐色細砂
粘土混入 しまりややあり
- 2 細砂 粘土混入 しまりややあり
- 3 10YR8/3 浅黄橙粘土
細砂粒混入 しまりややあり



第6図 長岡山遺跡 試掘調査 テストピット・トレンチ図（3）

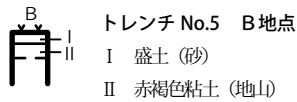
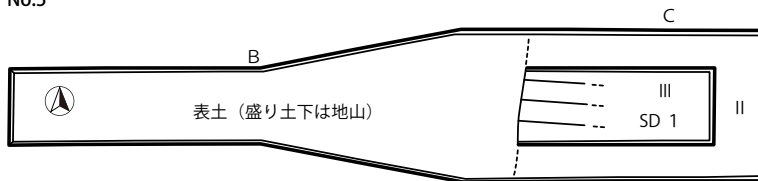




第8図 長岡山遺跡 第1次調査 トレンチ位置図

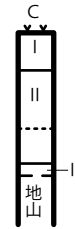
Ⅲ 長岡山遺跡

No.5



トレンチ No.5 B地点

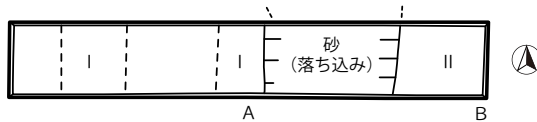
- I 盛土 (砂)
- II 赤褐色粘土 (地山)



トレンチ No.5 C地点

- I 盛土 (砂)
- II 暗赤褐色粘土質砂 (地山中の白色粘土礫含む)
SD 1の覆土1
- III 暗褐色砂質粘土 (地山中の白色粘土礫含む)
崩落・堆積土 SD 1の覆土2

No.7



トレンチ No.7 A地点

- I 盛土 (埋土) 砂
- II 暗黄灰褐色粘土



トレンチ No.7 B地点

- I 埋土 (盛土) 砂
- II 暗褐色砂質粘土 (旧表土)
- III 暗黄褐色粘土 (旧表土)

No.8 A



トレンチ No.8 A A地点

- I 盛土 (砂)



トレンチ No.8 A B地点

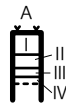
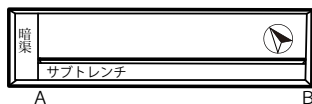
- I 盛土 (砂)
- II 暗褐色粘土質砂 (埋土)



トレンチ No.8 A C地点

- I 盛土 (砂)
- II 暗褐色粘土質砂 (埋土)

No.8 B



トレンチ No.8 B A地点

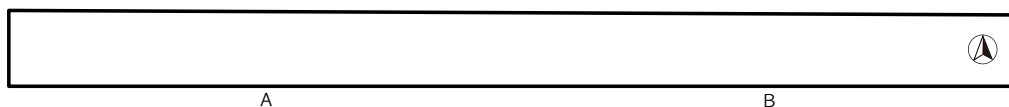
- I 盛土 (砂)
- II 暗灰褐色粘土質砂 (旧表土)
- III 暗褐色砂質粘土 やや泥炭質 (遺物)
- IV 暗黄灰褐色砂質粘土 (地山の上層の土)



トレンチ No.8 B B地点

- I 盛土 (砂)
- II 暗灰褐色粘土質砂 (旧表土)
- III 暗褐色砂質粘土 やや泥炭質 (遺物)

No.8 C



トレンチ No.8 C A地点

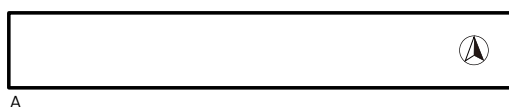
- I 盛土 (砂)
- II 暗灰褐色砂質粘土
- III 黄灰褐色粘土



トレンチ No.8 C B地点

- I 盛土 (砂)
- II 暗灰褐色砂質粘土

No.11



トレンチ No.11 A地点

- I 表土
- II 明黄灰褐色シルト

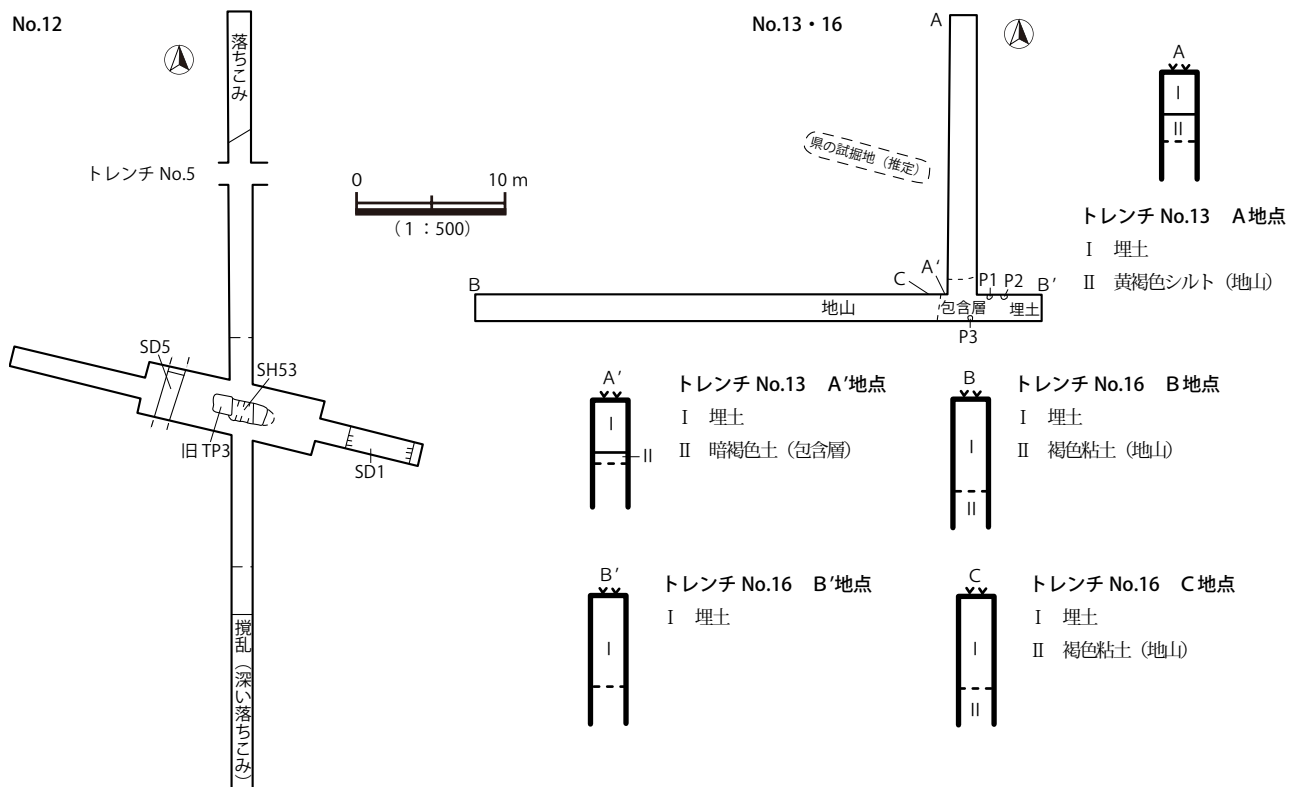


平面図 (1:150)

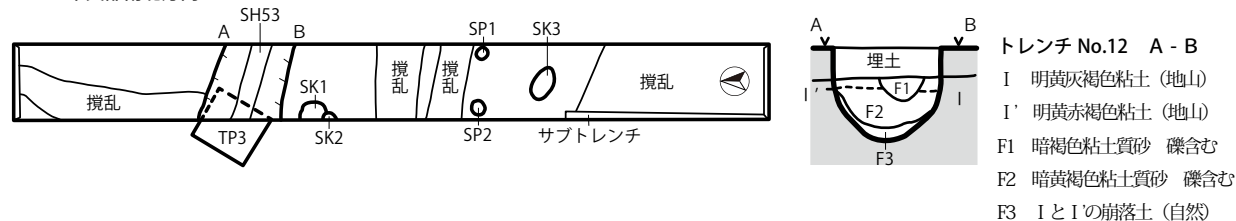


柱状図 (1:100)

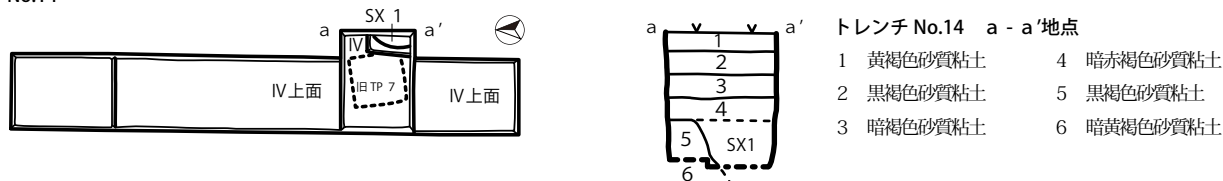
第9図 長岡山遺跡 第1次調査 トレンチ図 (1)



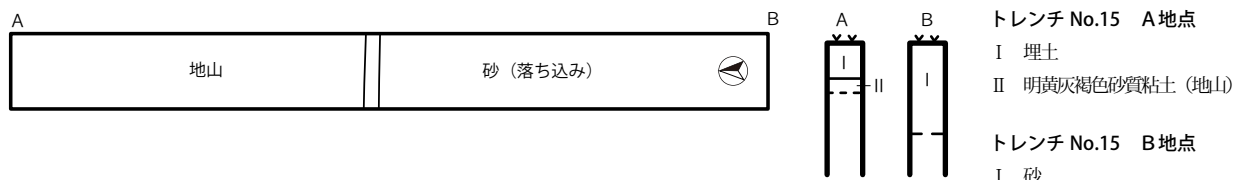
No.12 中央部南北方向



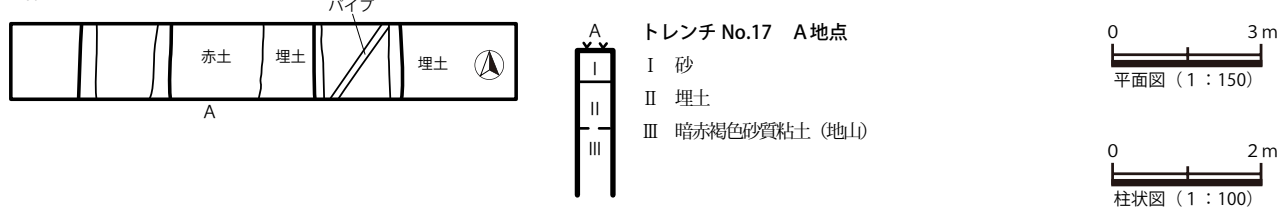
No.14



No.15

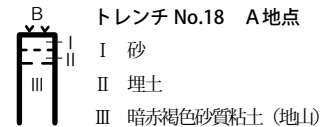
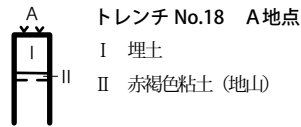
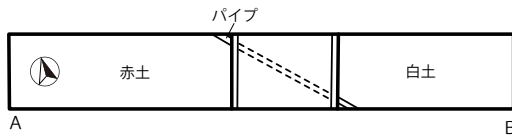


No.17

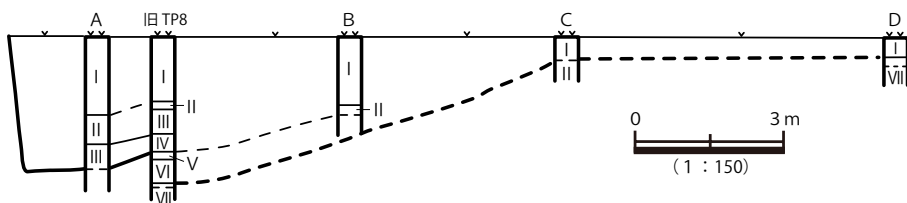
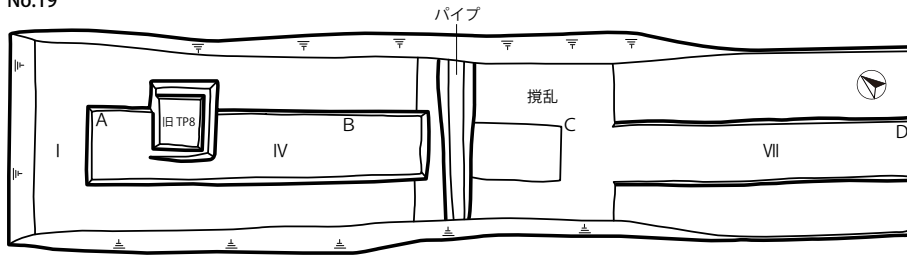


第 10 図 長岡山遺跡 第 1 次調査 トレンチ図 (2)

No.18



No.19



トレンチ No.19 A地点

- I 整地土
- II 埋土
- III 暗褐色砂質粘土

トレンチ No.19 旧 TP 8

- I 整地土
- II 灰褐色粘土質砂 (旧表土)
- III 黒褐色粘土質砂
- IV 暗褐色砂質粘土
- V 褐色砂質粘土
- VI 黒褐色砂質粘土
- VII 褐色砂質粘土 (地山)

トレンチ No.19 B地点

- I 整地土
- II 暗褐色砂質粘土

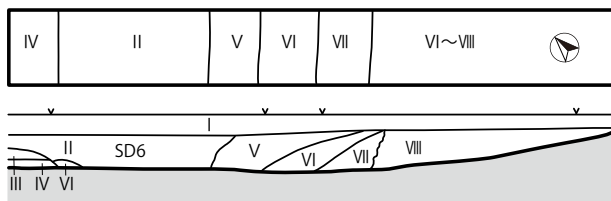
トレンチ No.19 D地点

- I 整地土
- VII 褐色砂質粘土 (地山)

トレンチ No.19 C地点

- I 整地土
- II 褐色砂質粘土 (地山)

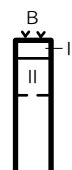
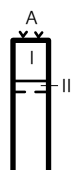
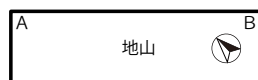
No.20



トレンチ No.20

- I 埋土・整地土
- II 暗褐色砂質粘土 (SD6の覆土1)
- III 暗黄褐色砂質粘土
- IV 赤褐色粘土 (地山、ただし動いている?)
- V 暗黄赤褐色砂質粘土 (SD6のF2か?埋土か?)
- VI 黒褐色砂質粘土 (SD6のF3か?)
- VII 黄褐色粘土 (地山)
- VIII 攪乱 (部分的)

No.22



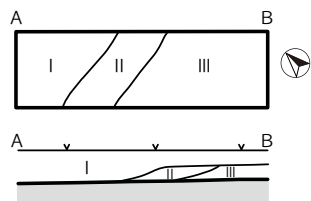
トレンチ No.22 A・B地点

- I 整地土
- II 明黄褐色粘土 (地山)

0 3 m
平面図・土層断面図 (1:150)

0 2 m
柱状図 (1:100)

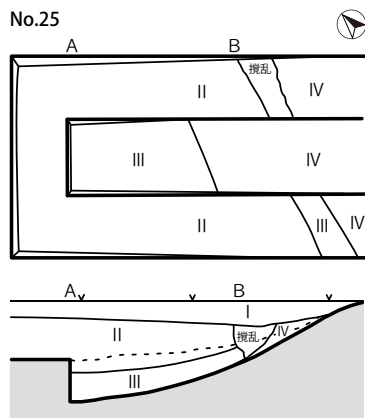
No.23



トレンチ No.23

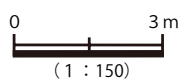
- I 整地土 (砂、黒土)
- II 暗褐色砂質粘土 (旧表土下の層)
- III 赤褐色粘土 (地山)

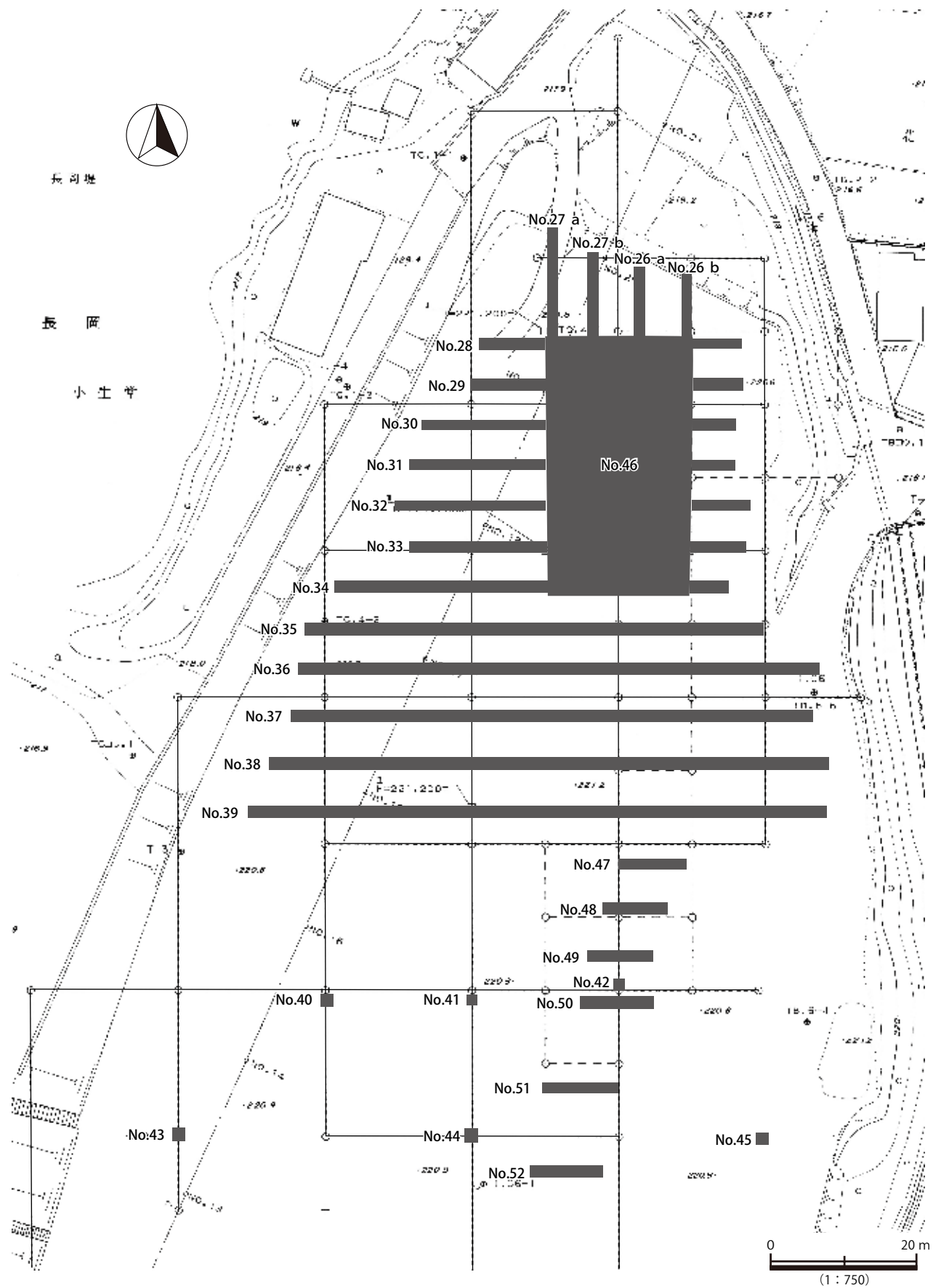
No.25



トレンチ No.25

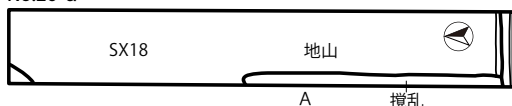
- I 整地土 (砂)
- II 整地土 (埋土)
- III 暗褐色粘土質砂・所々に黄色土ブロックを含む (覆土か)
- IV 暗灰褐色粘土質砂





第13図 長岡山遺跡 第2次調査 トレンチ位置図

No.26 a



トレンチ No.26 a A地点
I 整地土
II 暗褐色粘土質砂
III 暗黄褐色砂質粘土 (地山)

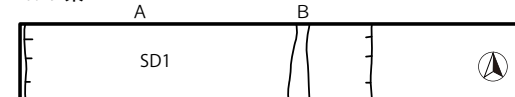
No.26 b



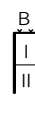
No.28 東



No.29 東

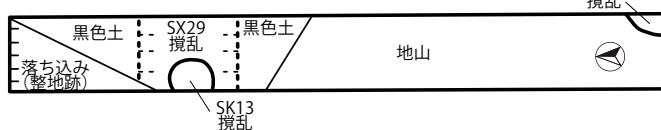


トレンチ No.29 東 A地点
I 埋土
II 暗褐色粘土質砂



トレンチ No.29 東 B地点
I 埋土
II 地山

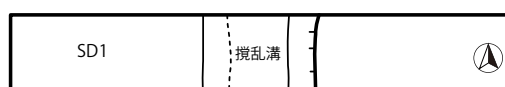
No.27 a



No.27 b



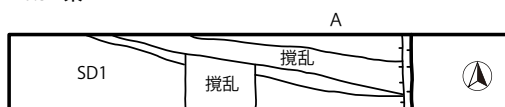
No.30 東



No.31 東

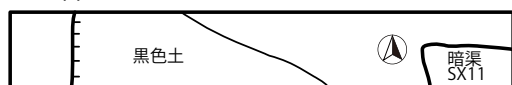


No.32 東



トレンチ No.32 東 A地点
I 埋土
II 地山

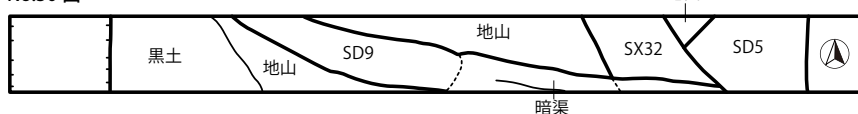
No.28 西



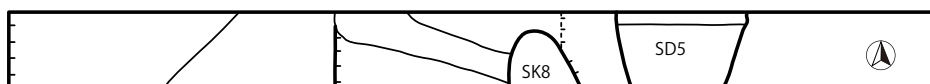
No.29 西



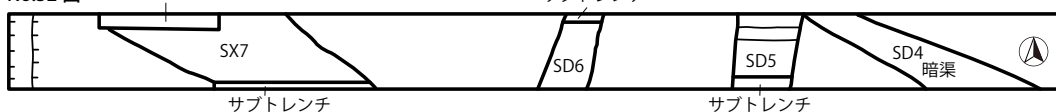
No.30 西



No.31 西



No.32 西



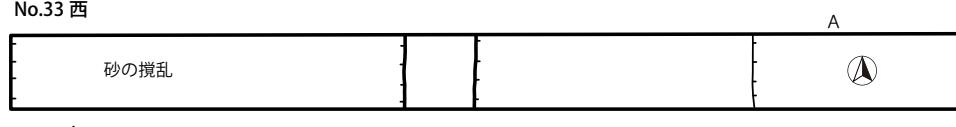
平面図 (1:150)



柱状図 (1:100)

第 14 図 長岡山遺跡 第 2 次調査 トレンチ図 (1)

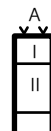
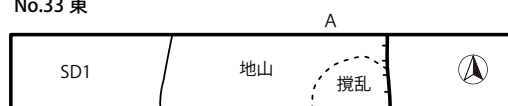
No.33 西



トレンチ No.33 西 A地点

- I 埋土
- II 地山

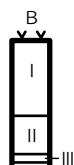
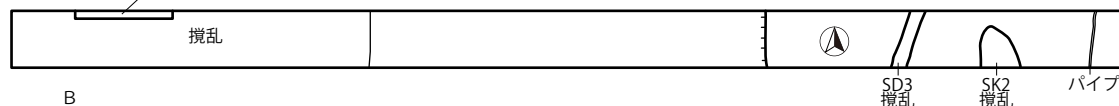
No.33 東



トレンチ No.33 東 A地点

- I 埋土
- II 地山

No.34 西 サブトレンチ

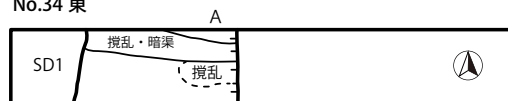


トレンチ No.34 西 B地点

- I 埋土
- II 盛土
- III 地山

0 4m
No.3 4 西 平面図 (1 : 200)

No.34 東

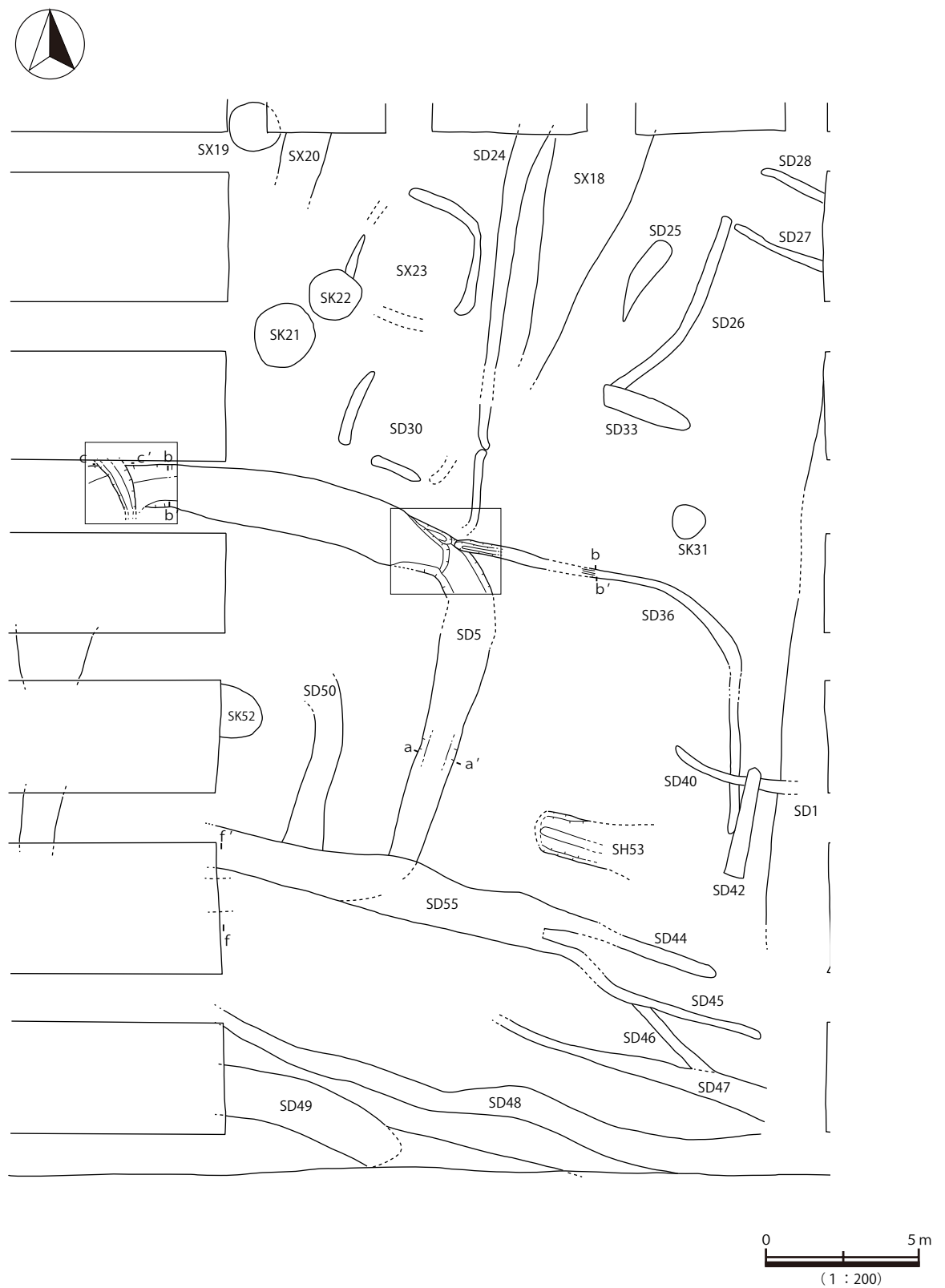


トレンチ No.34 東 A地点

- I 埋土
- II 地山

0 3m
平面図 (1 : 150)

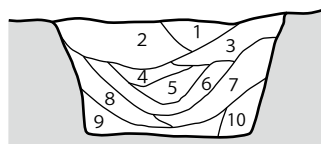
0 2m
柱状図 (1 : 100)



第 16 図 長岡山遺跡 第 2 次調査 No.46 精査区 遺構配置図

SD5 a - a'

a $\overline{L} = 221.016$

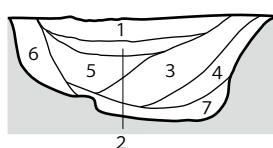


SD5 a - a'

- 1 10R1.7/1 暗褐色砂質粘土
- 2 2.5YR2/1 褐色砂質粘土 (1に似るが、1より明るい)
- 3 7.5R3/1 暗褐色砂質粘土 (黄褐色の粒子 (5mm 最大位の礫風化したもの) 混じる)
- 4 7.5YR2/1 暗褐色砂質粘土 (縄文土器含む 石含む)
- 5 10YR3/3 明黄褐色砂質粘土 (地山系の風化土が主で褐色粘土に混じる)
- 6 10YR1.7/1 黒褐色砂質粘土 (砂は少なめ、特に黒い印象)
- 7 10YR3/3 明黄褐色砂質粘土 (5mm 位の小礫含む)
- 8 10YR4/4 褐色砂質粘土
- 9 7.5YR4/3 褐色砂質粘土 (8より暗め、3～5mm の黄白色礫含む)
- 10 7.5YR4/3 褐色砂質粘土 (明褐色砂粘の土の塊を所々に含む)

SD5 b - b'

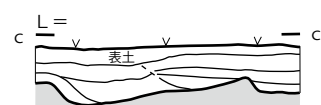
b $\overline{L} =$



SD5 b - b'

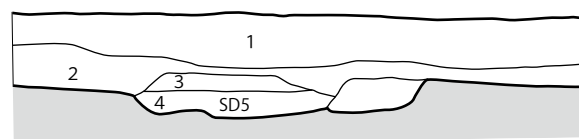
- 1 7.5R3/1 暗褐色砂質粘土
- 2 10R1.7/1 暗褐色砂質粘土
- 3 10YR3/3 明黄褐色砂質粘土
- 4 2.5YR2/1 褐色砂質粘土
- 5 10YR4/4 褐色砂質粘土
- 6 2.5YR2/1 褐色砂質粘土 (小石多く混じる)
- 7 10YR3/3 明黄褐色砂質粘土

SD5 c - c'



SD5 f - f'

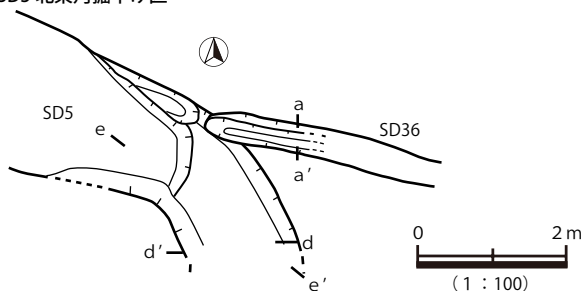
f $\overline{L} = 221.216$



SD5 f - f'

- 1 黄褐色粘砂 (表土1 砂)
- 2 暗褐色砂粘 (表土2 砂多い、整地土)
- 3 5YR2/1 褐色砂粘 (砂多い、5mm 位の礫含む)
- 4 10YR3/4 褐色砂粘 小白礫多 (1cm 位の礫含む)

SD5 北東角掘下げ区



SD5 d - d'

d $\overline{L} = 221.066$



SD5 d - d'

- 1 10R1.7/1 暗褐色砂質粘土
- 2 7.5YR2/1 暗褐色砂質粘土
- 3 7.5R3/1 暗褐色砂質粘土
- 4 2.5YR2/1 褐色砂質粘土

SD5 e - e'

e $\overline{L} = 221.066$



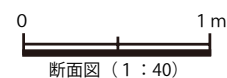
SD36 a - a'

a $\overline{L} =$



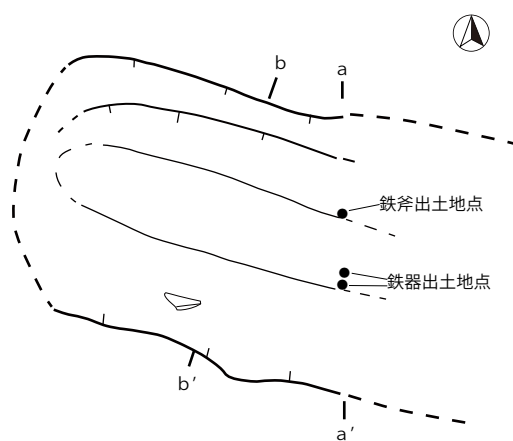
SD36 b - b'

b $\overline{L} =$

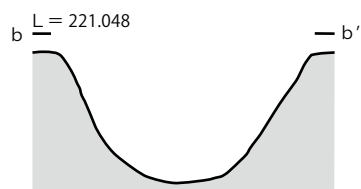


第 17 図 長岡山遺跡 第 2 次調査 No.46 精査区 遺構断面図

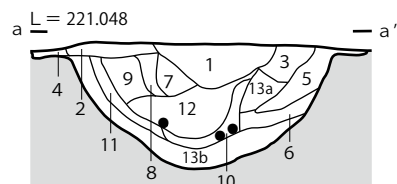
SH53 墓坑



SH53 b - b'

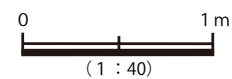


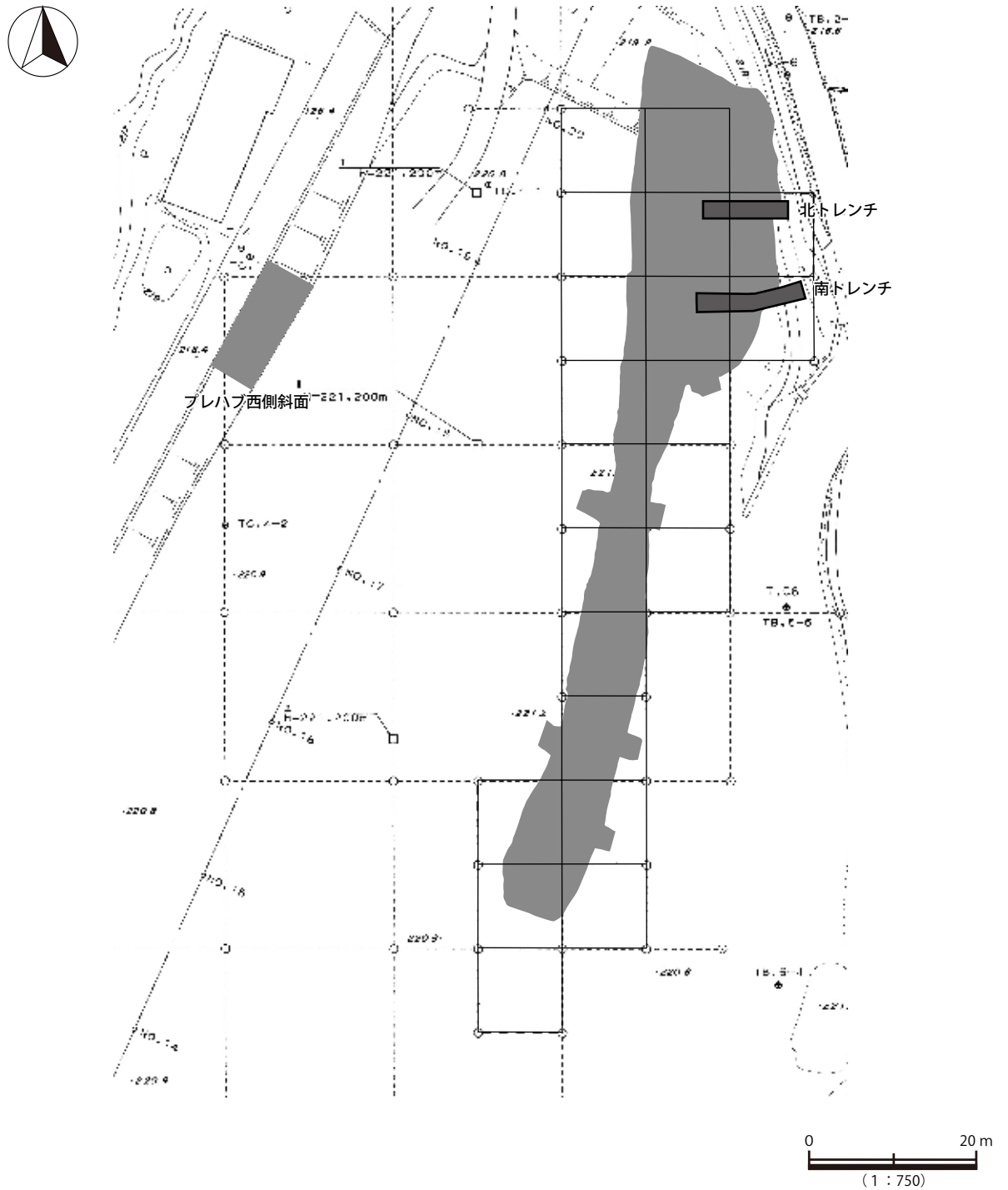
SH53 a - a'



SH 53 a - a'

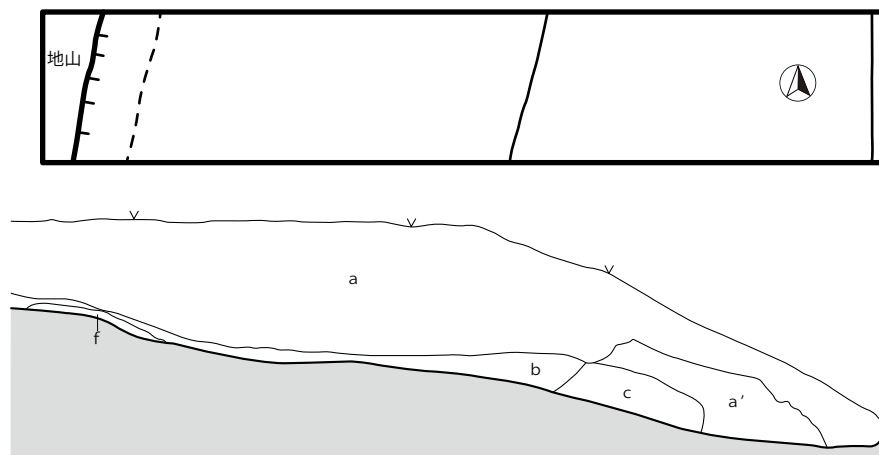
- 1 7.5YR3/2 黒褐色 地山土2～3cmブロック
- 2 7.5YR4/2 黒褐色
- 3 7.5YR4/2 黒褐色 地山土多
- 4 7.5YR4/2 黒褐色 地山白土少
- 5 7.5YR2/1 黒褐色 地山黄色土少
- 6 10YR5/4 にぶい黄褐色 黒土多
- 7 10YR5/6 黄褐色 暗褐色土
- 8 10YR5/6 黄褐色粘砂 白土ブロック少
- 9 10YR6/6 明黄褐色粘砂 黄ブロック
- 10 10YR2/3 黒褐色粘砂 (● 鉄器出土地点)
- 11 10YR4/4 褐色粘砂
- 12 7.5YR6/6 橙色粘砂 黒色土多
- 13 a 7.5YR6/8 橙色粘砂 黒土 地山白
- 13 b 7.5YR6/8 橙色粘砂 地山白色土ブロック





第 19 図 長岡山遺跡 第 3・4 次調査区 位置図

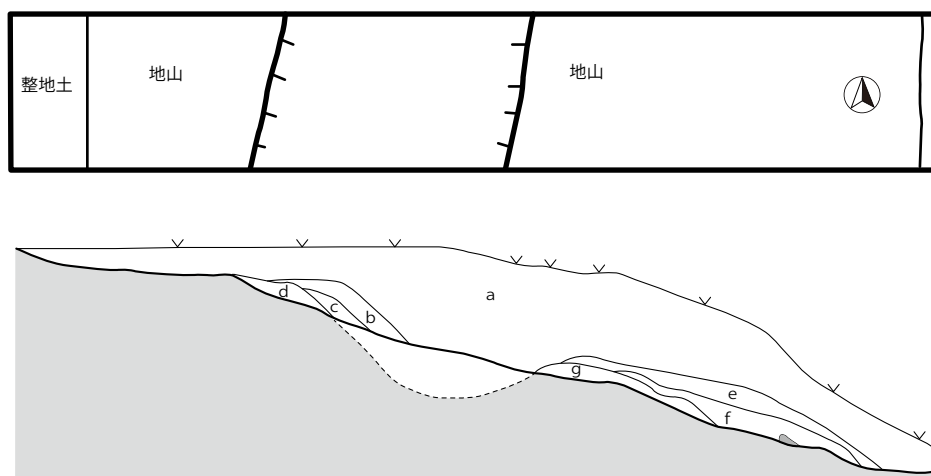
北トレンチ



北トレンチ 北壁

- a 整地土
- b 暗赤褐色砂質粘土
- c 暗赤褐色砂質粘土
- d 黄褐色粘土
- e 畑土か
- f 暗灰褐色砂質粘土

南トレンチ

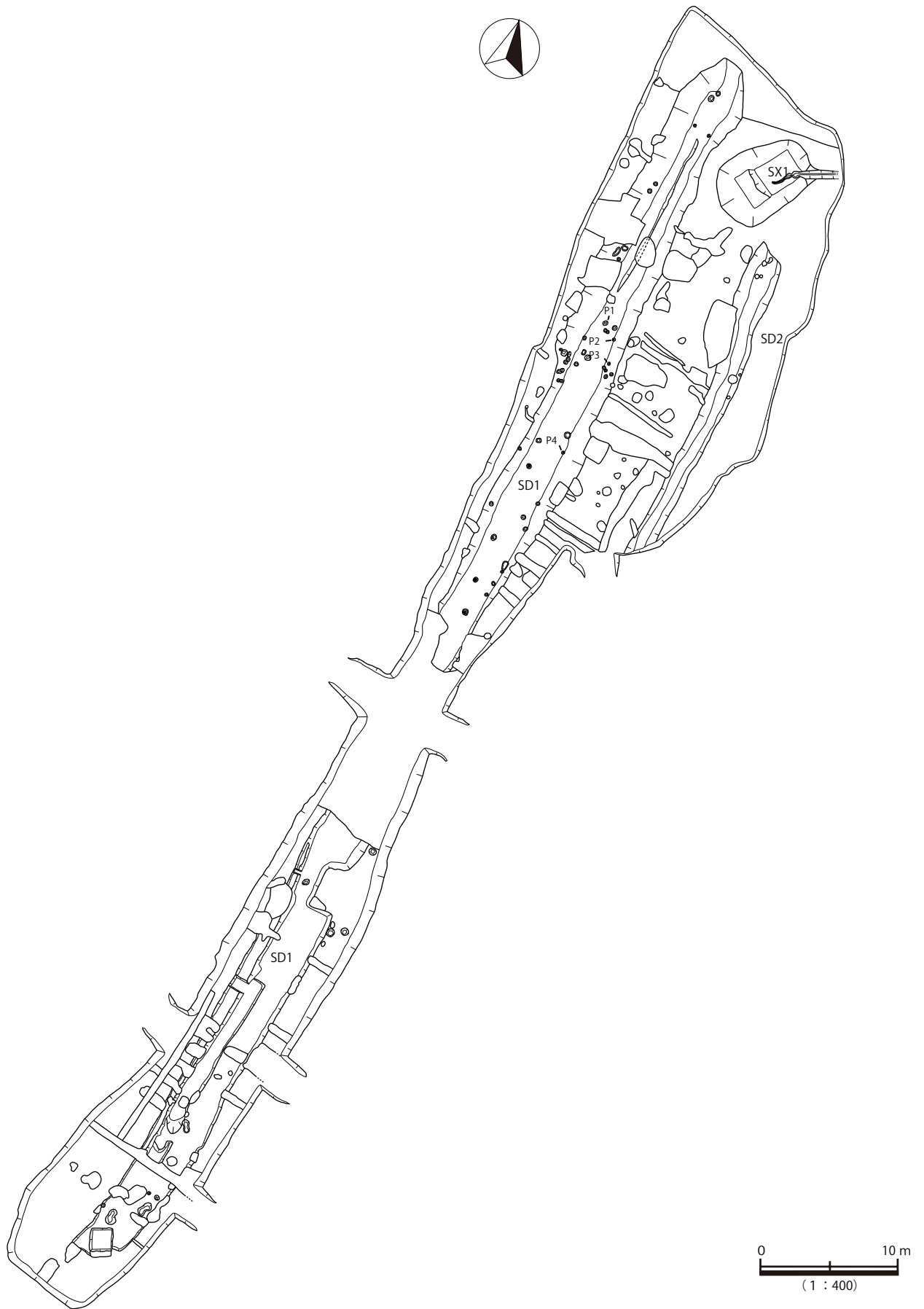


南トレンチ 北壁

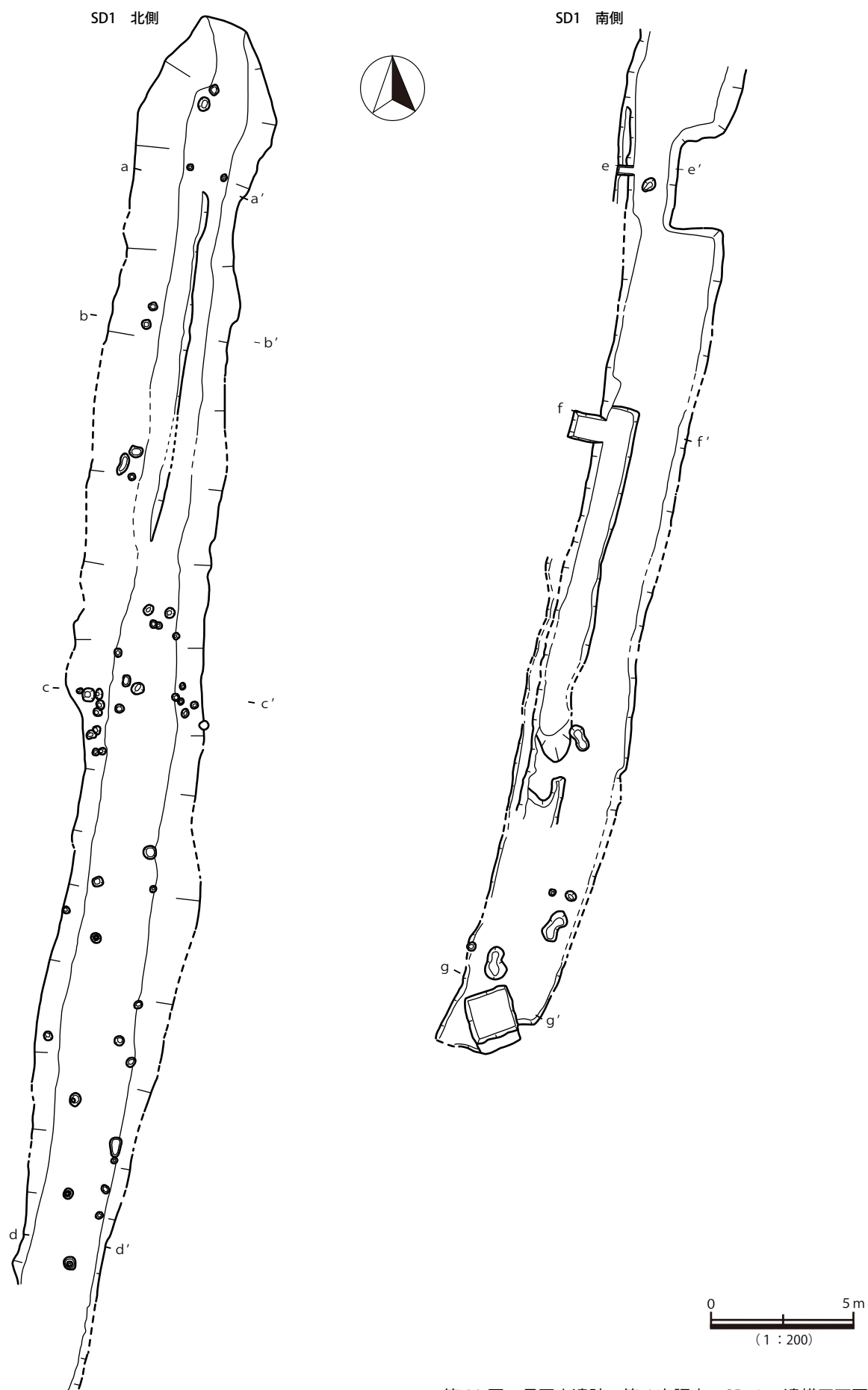
- a 整地土
- b 暗赤褐色砂質粘土
- c 暗黄褐色砂質粘土
- d 黄褐色粘土
- e 暗褐色粘質砂 (畑土か)
- f 暗灰褐色砂質粘土
- g 明黄褐色粘土

0 2m
(1 : 100)

第 20 図 長岡山遺跡 第 3 次調査 トレンチ図

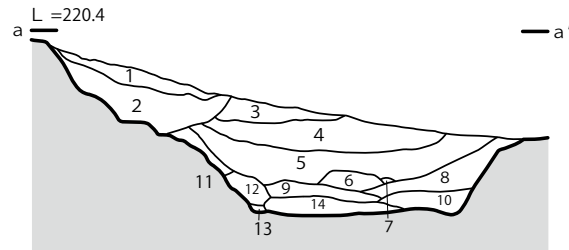


第 21 図 長岡山遺跡 第 4 次調査 遺構配置図



第 22 図 長岡山遺跡 第 4 次調査 SD 1 遺構平面図

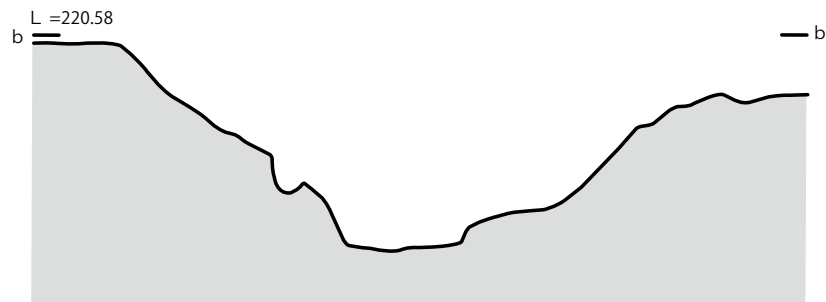
SD1 a - a'



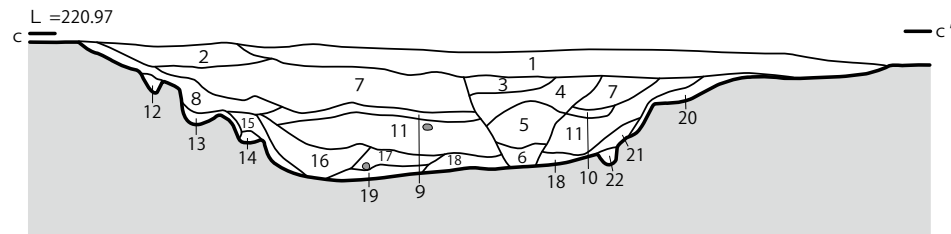
SD1 a - a' (ベルト3南壁)

- 1 5YR2/4 極暗赤褐色中砂 粘土混じる
- 2 5YR2/3 極暗赤褐色中砂 粘土混じる
- 3 5YR2/2 極暗赤褐色中砂 粘土混じる
- 4 7.5YR4/4 褐色中砂 粘土混じる
- 5 5YR4/6 赤褐色中砂 粘土混じる
- 6 7.5YR4/4 褐色中砂 粘土混じる
- 7 5YR4/4 にぶい赤褐色粘土 中砂混じる
- 8 7.5YR3/3 暗褐色粘土 中砂混じる
- 9 7.5YR4/4 褐色粘土 中砂混じる
- 10 7.5YR4/2 灰褐色粘土 中砂混じる
- 11 5YR5/6 暗褐色粘土 中砂混じる
- 12 5YR6/4 にぶい橙色粘土 中砂混じる
- 13 7.5YR5/6 褐色粘土 中砂混じる しまりややあり
- 14 10YR5/6 黄褐色粘土 中砂混じる しまりややあり
白い小粘土粒を含む

SD1 b - b'

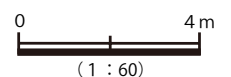


SD1 c - c'



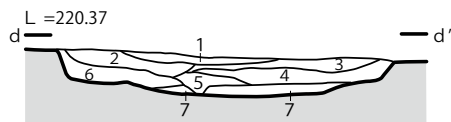
SD1 c - c' (ベルト4)

- 1 整地土
- 2 5YR2/4 極暗赤褐色中砂 粘土混じる しまりなし (畑土)
- 3 5YR2/2 黒褐色中砂 粘土混じる しまりなし
- 4 5YR2/3 極暗赤褐色中砂 粘土混じる しまりなし
- 5 7.5YR2/3 極暗褐色中砂 粘土混じる しまりなし
- 6 7.5YR3/3 暗褐色中砂 粘土混じる しまりなし
- 7 7.5YR4/4 褐色中砂 粘土混じる しまりなし (畑土か)
- 8 5YR5/6 明赤褐色粘土 中砂混じる しまりなし
- 9 5YR4/6 赤褐色粘土 中砂混じる しまりなし
- 10 5YR4/4 にぶい赤褐色 中砂混じる しまりなし
- 11 7.5YR3/3 暗褐色中砂 粘土混じる しまりなし (白色小岩が竊状に入る)
- 12 7.5YR5/6 明褐色粘土 中砂混じる しまりややあり
- 13 7.5YR6/6 橙色粘土 中砂混じる しまりあり 白色泥の小ブロック含む
- 14 5YR6/6 橙色粘土 中砂混じる しまりややあり
- 15 5YR4/6 赤褐色
- 16 5YR5/6 明赤褐色粘土 中砂混じる しまりややあり
- 17 7.5YR5/8 明褐色粘土 中砂混じる 白色粘土小ブロックを多く含む
- 18 10YR5/6 黄褐色粘土 中砂混じる しまりややあり
白と茶の粘土小ブロックを多く含む
- 19 5YR4/3 にぶい赤褐色荒砂 粘土混じる 白色粘土小ブロック含む
- 20 7.5YR5/6 明褐色粘土 細砂混じる しまりややあり
- 21 7.5YR4/2 灰褐色粘土 中砂混じる しまりややあり
- 22 10YR6/6 明黄褐色粘土 しまりややあり



第 23 図 長岡山遺跡 第 4 次調査 SD1 遺構断面図 (1)

SD1 d - d'



SD1 d - d' (ベルト 5)

- 1 5YR3/3 暗赤褐色中砂 粘土混入 しまりなし
- 2 10YR5/4 にぶい黄褐色中砂 粘土混入 しまりややあり
- 3 10YR4/2 灰黄褐色細砂 粘土混入 しまりややあり
- 4 7.5YR4/4 褐色中砂 粘土混入
- 5 5YR4/2 灰褐色粘土 細砂混入 しまりややあり
- 6 10YR5/3 にぶい黄褐色粘土 礫・中砂混入 しまりなし
- 7 7.5YR8/4 浅黄褐色粘土 しまりややあり

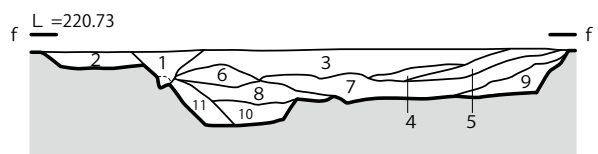
SD1 e - e'



SD1 e - e' (ベルト 6)

- 1 7.5YR4/3 褐色中砂 粘土混入 白、黄色粘土 1～3cm を多く含む
- 2 7.5YR6/4 にぶい橙色粘土 中砂混入 しまりややあり
白色、黒色粘土縞状に入る
- 3 7.5YR4/6 褐色粘土 中砂混入 しまりややあり 白色粘土小粒を少し含む
- 4 5YR4/4 にぶい赤褐色中砂 粘土混入
- 5 7.5YR6/6 橙色粘土 細砂混入 しまりややあり
- 6 10YR4/6 褐色粘土 中砂混入
- 7 7.5YR7/6 橙色粘土 細砂混入
- 8 5YR4/3 にぶい赤褐色粘土 中砂混入
- 9 7.5YR4/2 灰褐色粘土 中砂混入 白色粘土小粒含む
- 10 5YR5/2 灰褐色粘土 中砂混入
- 11 7.5YR4/2 灰褐色粘土 細砂混入
- 12 7.5YR5/4 にぶい褐色中砂 粘土混入
- 13 7.5YR3/2 黒褐色粘土 中砂混入 しまりややあり 黒色粘土を多く含む

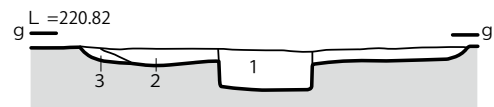
SD1 f - f'



SD1 f - f' (ベルト 7)

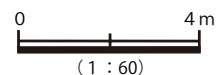
- 1 5YR2/2 黒褐色粘土 中砂混入 しまりややあり (上からの攪乱)
- 2 5YR5/8 明赤褐色粘土 中砂混入 しまりあり
黒色土ブロックと白岩小粒少し含む
- 3 5YR3/1 黒褐色粘土 中砂混入 しまりややあり 小さい白色岩の粒を少し含む
- 4 5YR2/1 黒褐色粘土 中砂混入 しまりややあり
- 5 5YR2/1 黒褐色粘土 中砂混入 しまりややあり 黄褐色粘土を多く含む
- 6 10YR4/4 褐色粘土 中砂混入 黄褐色岩の粒大中を含む
- 7 7.5YR2/2 黒褐色粘土 中砂混入 しまりややあり
- 8 7.5YR4/6 褐色粘土 中砂混入 6 と似る
- 9 5YR5/6 明赤褐色粘土 白色細粒を少し含む
- 10 7.5YR4/4 褐色粘土 中砂混入 8 と似る 粒を多く含む
- 11 5YR3/6 暗赤褐色粘土 中砂混入 しまりややあり

SD1 g - g'

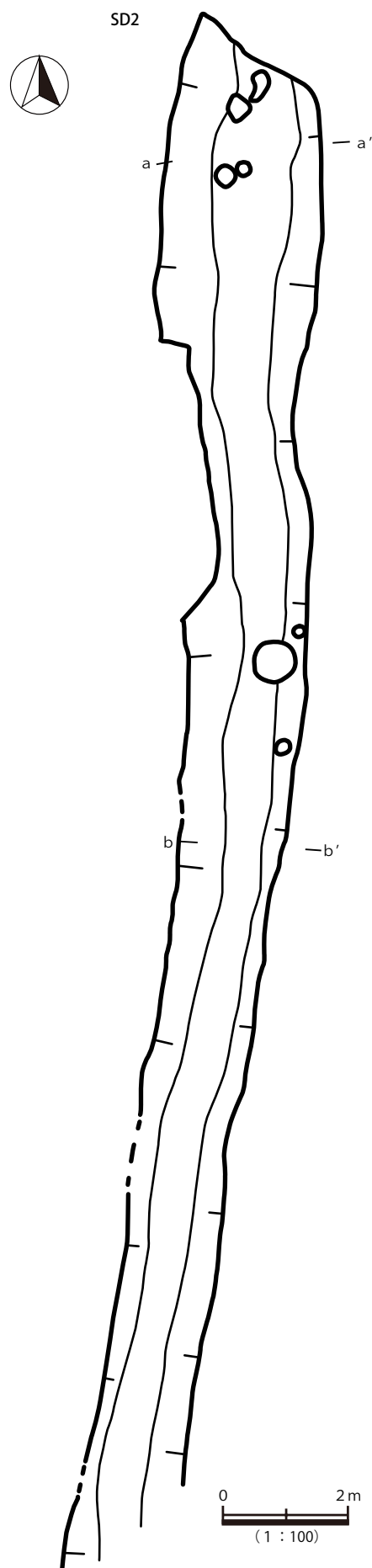


SD1 g - g' (ベルト 8)

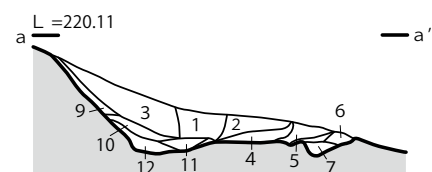
- 1 TP 跡
- 2 7.5YR2/2 黒褐色粘土 中砂・白色岩小粒混入 しまりあり SD1 覆土
- 3 5YR2/1 黒褐色粘土 中砂・地山土混入 しまりあり SD1 覆土



第 24 図 長岡山遺跡 第 4 次調査 SD1 遺構断面図 (2)



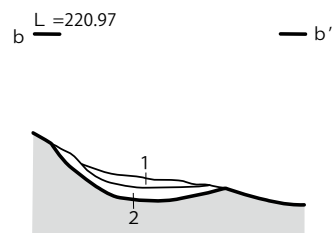
SD2 a - a'



SD2 a - a'

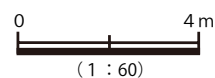
- 1 10YR2/2 黒褐色中砂 粘土混入
- 2 10YR3/3 暗褐色中砂 粘土混入
- 3 7.5YR4/4 褐色中砂 粘土混入
- 4 10YR8/4 浅黄褐色粘土 細砂混入 ほぼ地山粘土
- 5 7.5YR5/4 にぶい褐色中砂 粘土混入 10 に似る
- 6 7.5YR6/4 にぶい橙色粘土 中砂混入
- 7 10YR7/4 にぶい黄褐色粘土 細砂混入 白色土ブロック含む
- 8 7.5YR6/3 にぶい褐色粘土 細砂混入
- 9 7.5YR6/6 橙色粘土 細砂混入 しまりややあり
- 10 7.5YR7/6 橙色粘土 細砂混入
- 11 7.5YR6/3 にぶい褐色粘土 細砂混入
- 12 7.5YR6/4 にぶい褐色粘土 細砂混入

SD2 b - b'



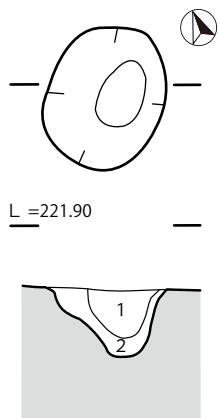
SD2 b - b'

- 1 10YR3/2 黒褐色中砂 粘土混じる しまりなし
- 2 10YR5/4 にぶい赤褐色粘土 中砂混じる 赤褐色粘土を少量含む



第 25 図 長岡山遺跡 第 4 次調査 SD2 平面図・断面図

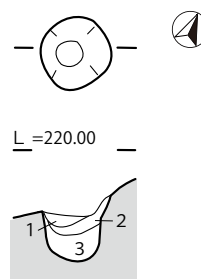
P1



P1

- 1 10YR4/4 褐色粘土 中砂混入
- 2 10YR6/6 明黄褐色粘土 中砂混入 地山の白色粘土粒を含む

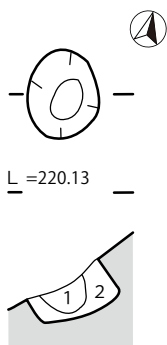
P2



P2

- 1 10YR5/4 にぶい黄橙色粘土 中砂混入
- 2 2.5Y8/4 淡黄色粘土
- 3 7.5YR6/4 にぶい橙色粘土 中砂混入

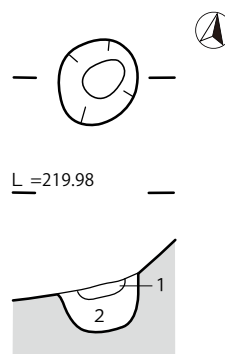
P3



P3

- 1 7.5YR4/4 褐色粘土 中砂混入
- 2 10YR7/8 明黄褐色粘土 中砂混入

P4



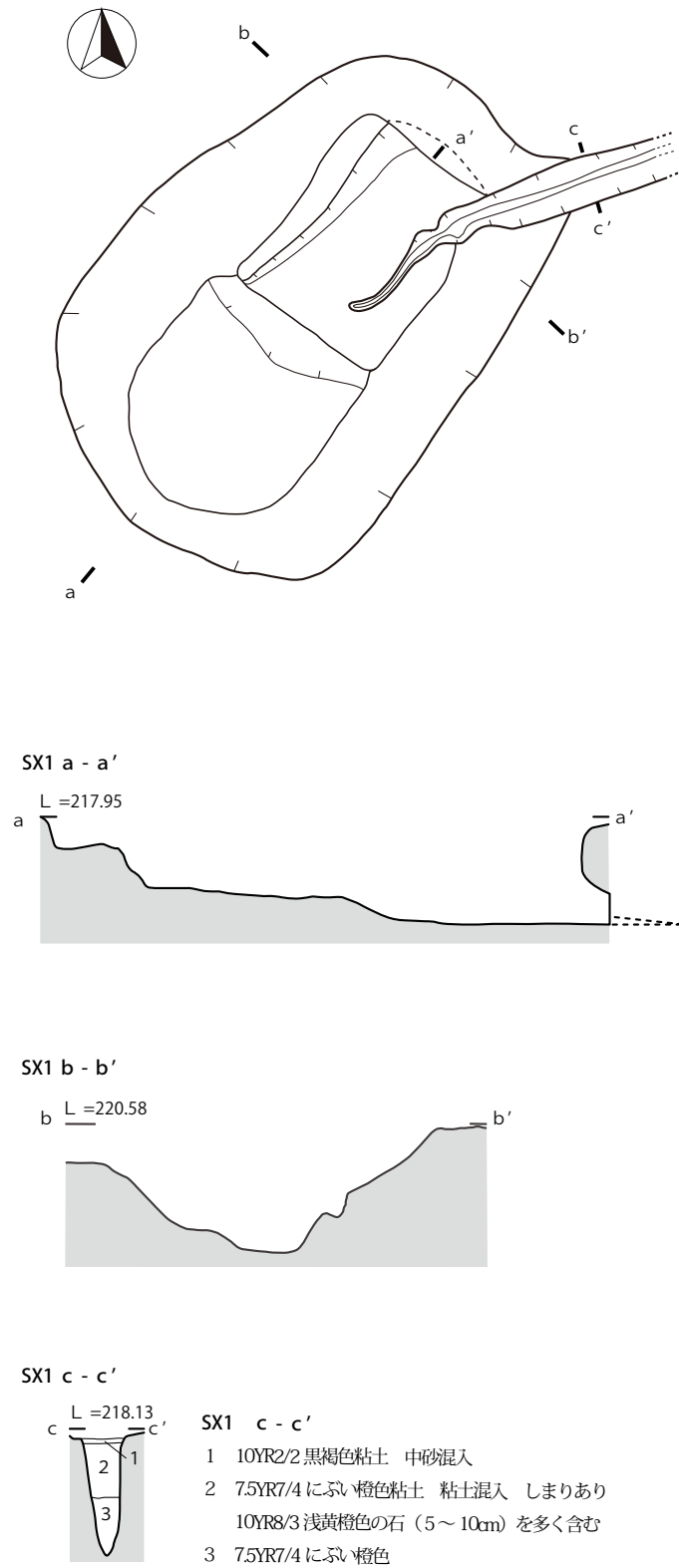
P4

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土 中砂混入
白色地山小ブロック混入
- 2 10YR7/3 にぶい黄褐色粘土 中砂混入



第 26 図 長岡山遺跡 第 4 次調査 S P 遺構断面図

SX 1



第 27 図 長岡山遺跡 第 4 次調査 SX1 平面図・断面図